POSE
(POINT SEQUENCE MANAGER)
SE10-8A7B1

詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

POSE（POint SEquence manager）（SE10-8A7B1） をご購入いただき誠にありがとうございます。POSE（POint SEquence manager）（SE10-8A7B1） （以下、本装置または本製品と省略）はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする接点制御装置です。各８個の無電圧接点を個別に遠隔制御／管理できます。PING による死活監視に加えて、年間スケジュール機能をご利用になれます。本装置が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。
最新情報を記載しておりますので購入後、以下のページを必ずご覧ください。

http://www.meikyo.co.jp/support/index.htm

この取扱説明書を必ずお読みください

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。
ご使用の前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1．取扱説明書（保証書）
2．CD－ROM
   ・取扱説明書（詳細版） PDF ファイル（本書）
   ・プライベート MIB ファイル
   ・その他ユーティリティソフト
   内容はCD－ROM内の説明をお読みください。
3．ACアダプター
4．コネクタ端子台（4 個）
5．コネクタ着脱工具
6．AC アダプターコード固定電材（一式）

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

分解・改造禁止	⃠ は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は ⃠ の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
ACアダプターを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、AC アダプターをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに AC コンセントから AC アダプターを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。

ACアダプターを抜く

●AC１００V（５０または６０Hｚ）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流１００V）以外の電圧で使用しないでください。特に１１０Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。

交流１００V

●AC アダプターを傷つけたり、加工、過熱、修復しない

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを 加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。

コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。

パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や AC アダプターにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で AC アダプターを抜いたり、差し込んだりしないでください。 感電の原因となることがあります。

ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災，感電，故障などの原因になります。

液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。
万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、AC アダプターをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。

内部に異物を入れない

警告

●AC アダプターは必ず本製品付属のものをお使いください

AC アダプターは必ず本製品付属のものをお使いください。
本製品付属以外の AC アダプターをご使用になると、電圧や端子の極性が異なることがあるため、
発煙、発火の恐れがあります。

AC アダプターは付属のものを使う

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。

可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や AC アダプターに触れない

故障や感電の原因となります。

雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。

分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。AC アダプターをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。

AC アダプターを抜く

⚠注意

●AC アダプターを抜くときはコードを引っ張らない

AC アダプターを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。

風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。

温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、AC アダプターやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている AC アダプターやコネクタなどの接続部のお手入れは、AC アダプターやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の AC アダプターをコンセントから抜き、本装置に接続されている AC アダプターやコネクタ類も全て抜いてから行なってください。感電や故障の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。

湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

逆さま禁止

●AC アダプターとコンセントの定期点検を

AC アダプターとコンセントは長時間つないだままでいると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けますと、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。

定期点検

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。

国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。

不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。

ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。

バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。
倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。

踏み台禁止

目　次

第　１章　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・　10
　１　機能概要
　２　各部の名称と機能
　３　ＤＩＰスイッチの設定
　４　LED 表示について

第　２章　設置・取り付け　・・・・・・・・・・・・・・・　16
　１　設置・取り付け
　２　ラックへの取り付け
　３　固定方法

第　３章　初期設定　・・・・・・・・・・・・・・・　18
　１　初期設定
　２　初期化の方法

第　４章　Ｗｅｂブラウザでの設定、制御　・・・・・・・・・　23
　１　ログイン
　２　設定項目
　　基本設定
　　基本設定
　　時刻設定
　　機器設定
　　接点出力設定
　　接点入力設定
　　WakeOnLAN 設定
　　テスト送信
　　詳細設定
　　外部接続設定
　　シャットダウンスクリプト設定
　　仮想アウトレット設定
　　リモートスイッチ設定
　　接点設定
　　接点入力設定
　　接点出力設定
　　セキュリティ設定
　　ユーザーアカウント設定
　　セキュリティ詳細設定
　　通信設定
　　通信基本設定
　　通信詳細設定
　　ユーザーHTML 設定
　　SSH 設定
　　メール設定

監視設定
ＰＩＮＧ監視
ＰＯＰサーバ監視
スケジュール設定
パターン編集
カレンダー配置
休日テーブル配置
データファイル管理
コマンドによるスケジュールデータファイル保存／読込
システム情報
ＰＩNG送信
簡易説明

３　状態表示項目
簡易情報表示
監視状態表示
イベントログ表示
イベントログ表示
４　接点制御
接点制御
仮想アウトレット制御
５　ＣＰＵリセット

第５章　その他の設定　・・・・・・・・・・・・・・・　73
１　ＴＥＬＮＥＴによる設定
ＴＥＬＮＥＴコマンドによる設定

第６章　その他の制御　・・・・・・・・・・・・・・・　77
１　ＴＥＬＮＥＴ接続による制御
TELNET 接続による制御
２　メールからの制御
３　ＷＥＢコマンドからの制御

第７章　ロギング機能　・・・・・・・・・・・・・・・　84
１　ロギング機能の設定・表示
ログ制御変数のビット構成
ログ表示コマンド
ログの表示形式
記録ログ一覧表

第８章　PPPoE の使用　・・・・・・・・・・・・・・・　88
１　ＰＰＥｏＥについて
２　設定について
３　制御について
４　動作について

第９章　シャットダウンスクリプト　・・・・・・・・・・・・・・　93
１　スクリプト仕様について
1-1　スクリプトの基本動作
1-2　設定
1-3　ログ
1-4　エラー処理
1-5　テキスト仕様
1-6　 PING 確認について

第１０章　SNMP について　・・・・・・・・・・・・・・・・　97
１　ＳＮＭＰについて
２　機器設定
３　ＭＩＢについて

第１１章　仕様一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・　101
変数一覧表
ログ一覧表
コマンド一覧表
仕様一覧表
接点入出力インターフェース

問い合せ先
ご注意

第１章
はじめに

１．機能概要

本装置には以下の機能があります。

１）各８個の入出力接点を個別に制御/管理
　７つのＡ接点出力と１つのＢ接点出力
　（接点出力１から７はＡ接点出力、８はＢ接点出力）

２）通信による接点制御
・WEB からの接点制御と設定
・ＳＳＨ/TELNET からの接点制御と設定
・PPPoE クライアントとしての接続に対応
・ＳＮＭＰによる接点制御と設定
・E-Mail による接点制御と設定

３）スケジュールによる制御
・年間スケジュールによる接点制御

４）MAGICPACKET による起動とスクリプトによるシャットダウン

５）監視機能
・接点状態の監視
・ＩＣＭＰによる死活監視（ＰＩＮＧ監視）

６）各デバイスへの遅延接点投入
・本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各接点出力

７）通信中継機能
・TELNET クライアントとして通信

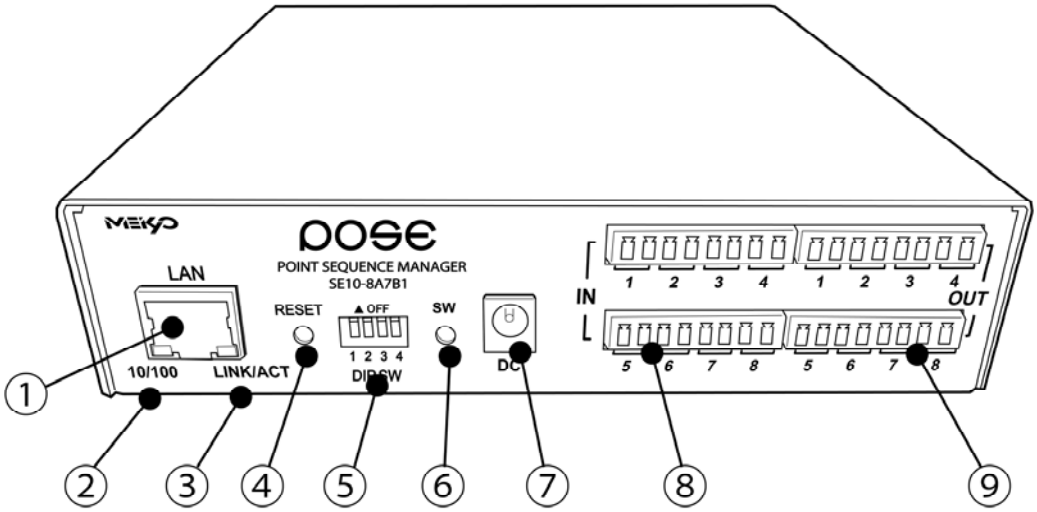
８）通知機能
・E-Mail による通知
・ＳＮＭＰによる通知

９）通信による遠隔バージョンアップ

注記：ネットワーク稼動監視シフト「RPC-EYE」は現状のV3 では使用できませんが、本装置対応のV4 を近日リリース予定しています。

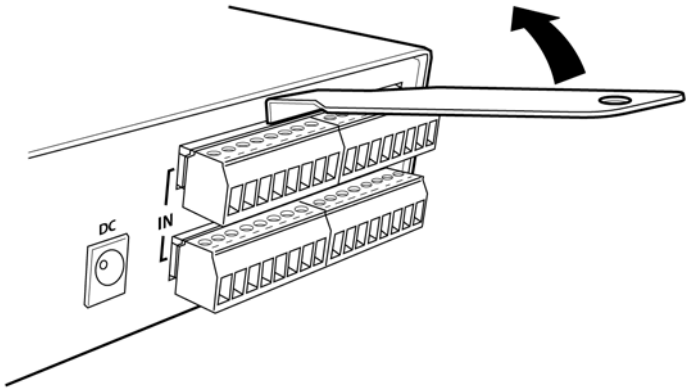
2. 各部の名称と機能

2-1 各部の名称



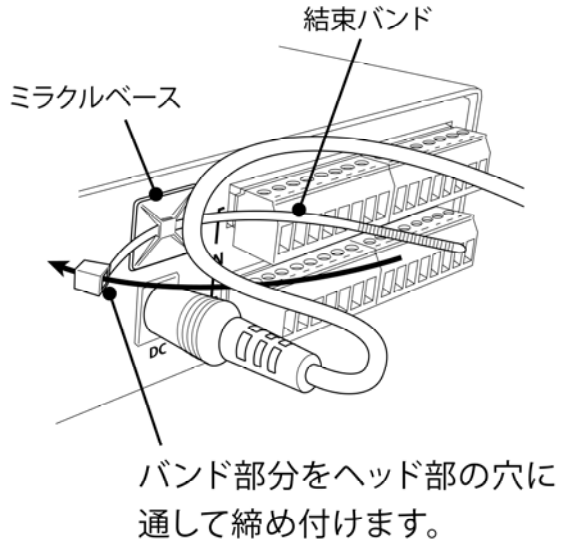
① LAN	LAN ケーブル（8 ピン RJ45）を接続します。
② 10/100 LED	LAN の通信速度を表示します。
③ LINK/ACT LED	通信状態を表示します。
④ RESET スイッチ	接点出力に影響を与えずに CPU を初期化します。
⑤ DIP スイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
⑥ SW	手動操作に利用するスイッチです。
⑦ DC	AC アダプターの DC ジャックを接続します。
⑧ ＩＮ	入力端子を接続します。（8 端子）
⑨ OUT	無電圧出力端子を接続します。（8 端子）

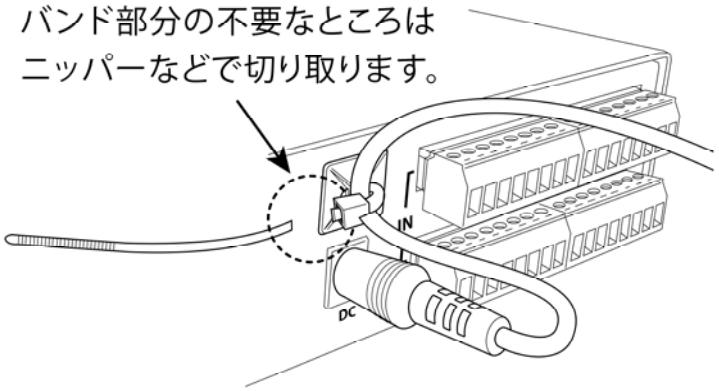
2-2　コネクタ端子台の外しかた



コネクタ着脱工具を図のようにコネクタの間の溝に差し込み、コネクタ着脱工具を左右に振り溝を徐々に広げていきはずします。

2-3　AC アダプターコードの固定方法





３．ＤＩＰスイッチの設定

ＤＩＰスイッチの機能（ＯＦＦは「上」、ONは「下」を意味します。）

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	初期化
2	OFF	運転モード
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード、初期化
4	OFF	ＯＦＦに固定
	ON	未使用

ＤＩＰスイッチの設定

ＤＩＰスイッチNO.		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	

注意　DIP スイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面の RESET スイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。
初期設定は、第３章　「初期設定」、「初期化の方法」を参照にして設定してください。

４．ＬＥＤ表示について

ＬＩＮＫ/ＡＣＴ　10/100　ＬＥＤ

通信状態を表示します。

ＬＥＤ	ＬＥＤ点灯状態	状　態
ＬＩＮＫ/ＡＣＴ　ＬＥＤ	点灯	リンク時
	消灯	データ受信時（連続データでは点滅）
10/100　ＬＥＤ	点灯	100BASE-TXでリンク時
	消灯	10BASE-Tでリンク時

第２章
設置・取り付け

１．設置・取り付け

以下の手順で設置します。

1）本体を設置場所に置きます。設置場所は、AC アダプターのジャックが、差し込める位置であることを確認します。

2）本体前面のＬＡＮ用コネクタにＬＡＮケーブルを接続します。

3）AC アダプターをコンセントに接続し、AC アダプターのジャックを本体 DC に接続します。

> **注意**　本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

２．ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

1）ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。

2）ラック・キャビネットに本装置を設置します。

3）本体前面ＬＡＮ用コネクタにＬＡＮケーブルを接続します。

4）AC アダプターをコンセントに接続し、AC アダプターのジャックを本体 DC に接続します。

３．固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（４箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、Ｍ ３×８ Ｌ（MAX）をご利用ください。

> **注意**　壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具 ATT02 が便利です。
> オプション：取付金具（ATT02）標準価格 3,150 円（税込）

第３章
初期設定

１．初期設定

1-1　ＲＰＣサーチソフトを利用する場合

ＲＰＣサーチソフトを利用して頂ければ、同一セグメント上の本装置を検索し接続することができます。DHCP 機能を利用した場合のように IP アドレスが分からない場合でも、本装置を検索し接続することができます。ＲＰＣサーチソフトのインストール手順は添付ＣＤ－ＲＯＭの README. txt を参照してください。（DHCP 初期値：有効）

設定用ＰＣと本装置とは、DHCP サーバの存在するＬＡＮに接続します。

1）ＲＰＣサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。

ＲＰＣサーチソフト起動画面

2）検索した機器を選択し、「WEB 接続」ボタンをクリックするとＷｅｂブラウザが起動しログイン画面が表示されます。

ＲＰＣサーチソフト機器検索画面

注意　LINK/ＡＣＴ　10/100　LED がいつまでも、交互に点滅している時は、DHCP によるアドレス取得ができない状態です。DHCP サーバを確認するか、ＩＰアドレスを固定にしてご利用ください。

1-2　ＩＰアドレスを固定にして利用する場合

DHCP 機能を無効にすると固定の IP アドレスを設定できます。外部のネットワークから接続するために固定 IP アドレスを必要とする場合などは、DHCP 機能を無効にして「ＩＰアドレス」を設定します。

設定用ＰＣと本装置とは、ＬＡＮ用コネクタにＬＡＮケーブルで接続します。
（ＰＣと直接接続する場合は、クロスのＬＡＮケーブルになります。）

1）LAN や VPN 上に 192.168.10.1 および 2 のＩＰアドレスを持つホストがないことを確認します。

2）設定用 PC のＩＰアドレスとネットマスクを以下の通り設定します。Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。
　　ＩＰアドレス　　：192.168.10.2
　　ネットマスク　　：255.255.255.0

3）本体前面の DIP スイッチ３ をＯＮ にします。
（メンテナンスモードになり、IP アドレスが 192.168.10.1 となります。）

4）本体前面の RESET スイッチを押します。

5）設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
http://192.168.10.1 を指定し、本装置にアクセスします。

> **注意**　ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。

6）Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｍｅｎｕ画面が表示されます。

7)「ＤＨＣＰ機能」を無効にチェックし「適用」をクリックします。その後、ＩＰアドレス欄にご利用になるLANに適切なＩＰアドレスを入力します。

8）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

9）本体前面のDIPスイッチ３ をＯＦＦ にします。（運用モードにします。）

10）本体前面のRESETスイッチを押します。

11）Webブラウザを閉じます。

12）設定用PCのＩＰアドレスを元に戻します。
Win9xの場合は設定変更後、再起動が必要です。

注意　設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESETスイッチ」を押してください。「RESETスイッチ」を押さないと設定が反映されません。

２．初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

（まだ AC アダプターをコンセントに接続しないでください。）

1）本体前面のＤＩＰスイッチ１と３ のみON（下）にします。

2）AC アダプターをコンセントに接続し、AC アダプターの DC ジャックを本体の DC に接続し電源を供給します。

3）本体前面のＬＩＮＫ／ＡＣＴ LED が５秒間点灯します。点灯中に本体前面のＲＥＳＥＴスイッチを１秒程度、押します。

4）初期化が成功するとＬＩＮＫ／ＡＣＴ LED が点灯します。

5）RESET スイッチを押す前に ＬＩＮＫ／ＡＣＴ LED が消灯した場合は一旦 AC アダプターの DC ジャックを抜き、電源を供給からやり直してください。

6）初期化後は、ＤＩＰスイッチを全てOFF（上）にし、再度電源を供給してからご使用ください。

7）以上で初期化が終わりましたので、前項目の「初期設定」から実行してください。

注意　　初期化中には本体の電源を切らないで下さい。

第４章
Ｗｅｂブラウザでの設定、制御

１．ログイン

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。（PROXY 経由ではご利用になれません）

> **注意**　ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。半角記号”?”,”=”,”%”,″&″,″,(カンマ)″,″(ダブルクォーテーション)は入力しないで下さい。

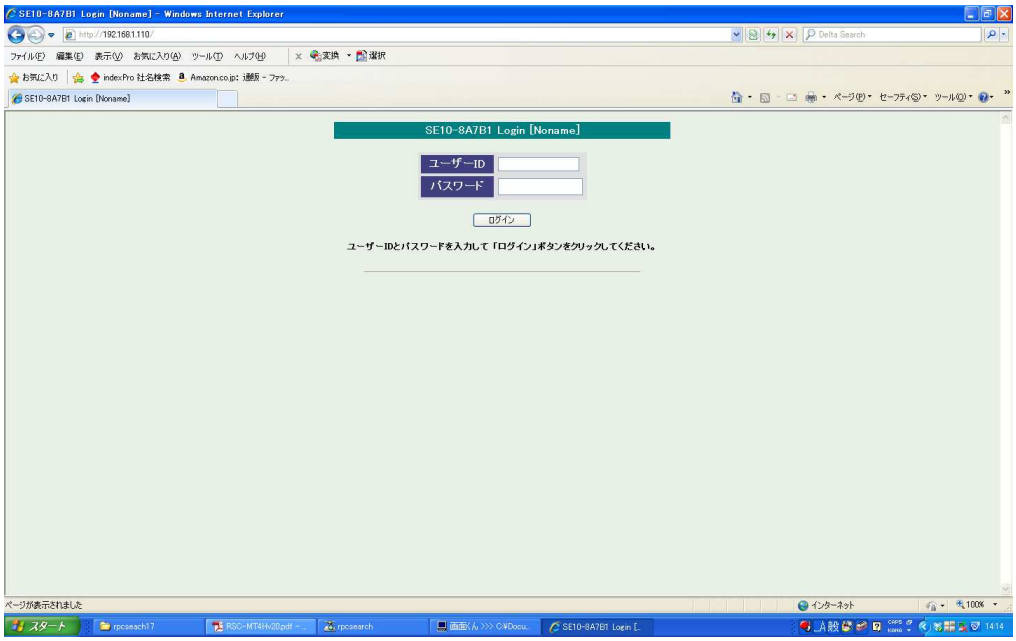
1）ＲＰＣサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「ＨＴＭＬ接続」ボタンをクリックする。またはＷｅｂブラウザを起動し、本装置に設定されたＩＰアドレスを指定してアクセスします。

（例　ＩＰアドレス　：　192.168.10.1　）

ＨＴＴＰポート番号「80」デフォルトの場合
http://192.168.10.1

ＨＴＴＰポート番号「500」に設定した場合
http://192.168.10.1：500

ログイン画面

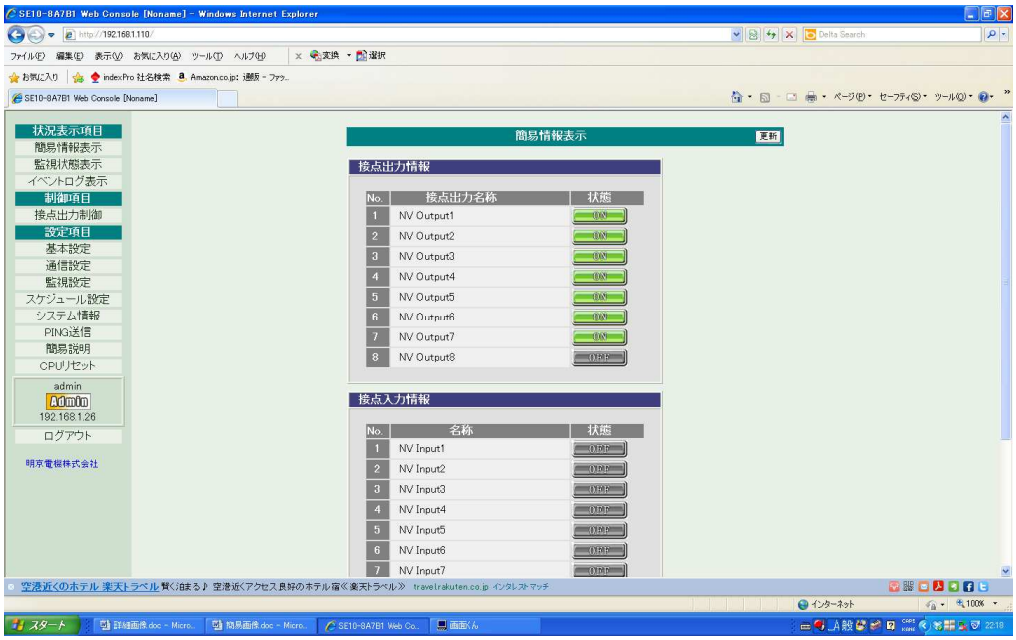


2）ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名　：　admin　（デフォルト）
パスワード　：　magic　（デフォルト）

3）簡易情報表示画面が表示されます。

簡易情報表示画面



注意　　簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

2．設定項目

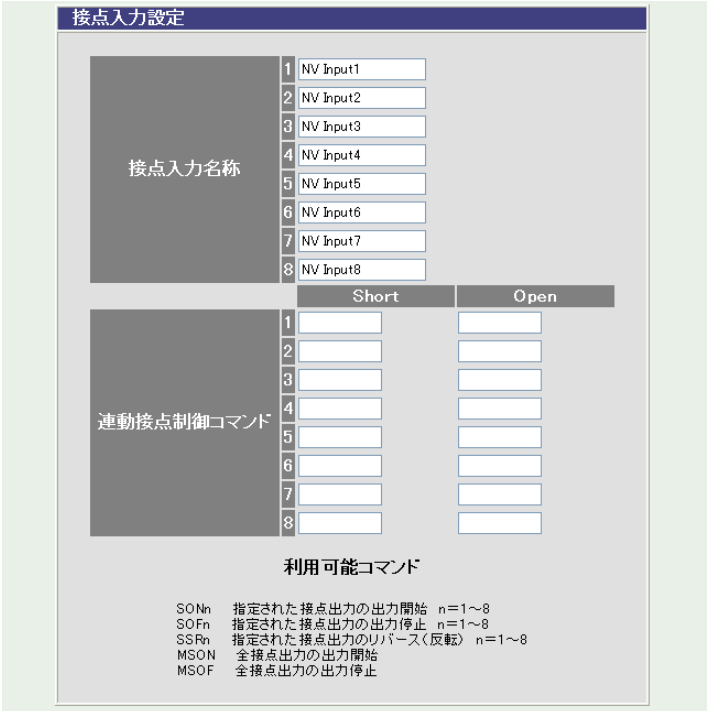
2-1　基本設定

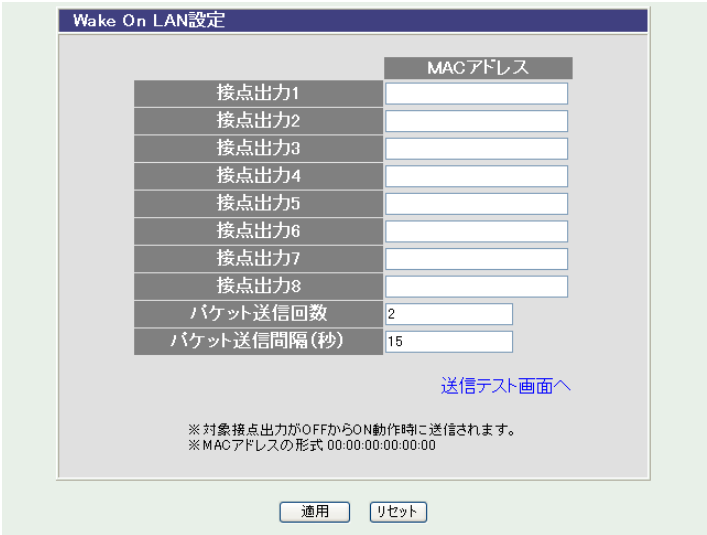
2-1-1　基本設定

本装置の基本的な設定をします。

1）画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。基本設定画面が表されます。

基本設定画面


接点入力設定
接点入力名称
1 NV Input1
2 NV Input2
3 NV Input3
4 NV Input4
5 NV Input5
6 NV Input6
7 NV Input7
8 NV Input8
Short
Open
連動接点制御コマンド
1
2
3
4
5
6
7
8
利用可能コマンド
SONn 指定された接点出力の出力開始 n＝1～8
SOFn 指定された接点出力の出力停止 n＝1～8
SSRn 指定された接点出力のリバース(反転) n＝1～8
MSON 全接点出力の出力開始
MSOF 全接点出力の出力停止


Wake On LAN設定
MACアドレス
接点出力1
接点出力2
接点出力3
接点出力4
接点出力5
接点出力6
接点出力7
接点出力8
パケット送信回数
2
パケット送信間隔(秒)
15
送信テスト画面へ
※対象接点出力がOFFからON動作時に送信されます。
※MACアドレスの形式 00:00:00:00:00:00
適用
リセット

2-1-1-1　時間設定

1）時間設定の「時刻設定」をクリックします。時刻設定画面が表されます。

時刻設定画面

ＰＣの時刻による設定

「適用」をクリックすると接続されたＰＣの時刻に設定されます。

2-1-1-2　機器設定

機器に関する設定をします。

機器設定

機器名称：　機器名称を設定します。

全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

設置場所：　設置場所を設定します。

全角 31 文字、半角英数字 63 文字以内

2-1-1-3　接点出力設定

接点出力に関する設定をします。

名称 1-8	：	接点出力名称を設定します。 全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
動作モード	：	レベル、パルス

2-1-1-4　接点入力設定

接点入力に関する設定をします。

名称 1-8	：	接点入力名称を設定します。 全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
連動接点制御 コマンド 1-8	：	SONn、SOFn、SSRn（n＝1～8） MSON、MSOF
Short	：	接点入力が短絡
Open	：	接点入力が開放

接点入力

接点入力信号が入力された時、連動接点制御コマンドを実行します。（接点が 1 秒（デフォルト）以上短絡、又は開放された場合を入力と判断します。）

2-1-1-5　WakeOnLAN 設定

WakeOnLAN に関する設定をします。

接点出力 1～8 MAC アドレス	デフォルト	：	00:00:00:00:00:00
パケット送信回数	デフォルト	：	2（回）
パケット送信間隔（秒）	デフォルト	：	15

＊　パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。
＊　パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。
＊　接点が ON した時、マジックパケットを送出します。

WakeOnLAN 機能について

WakeOnLAN 対応の機器に MAGIC PACKET を送信し、ブートアップさせることができます。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3)「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させ WakeOnLAN 送信テストの各接点出力の「送信」をクリックすると設定されている「MAC アドレス」の MAGIC PACKET を送信します。

送信テスト画面

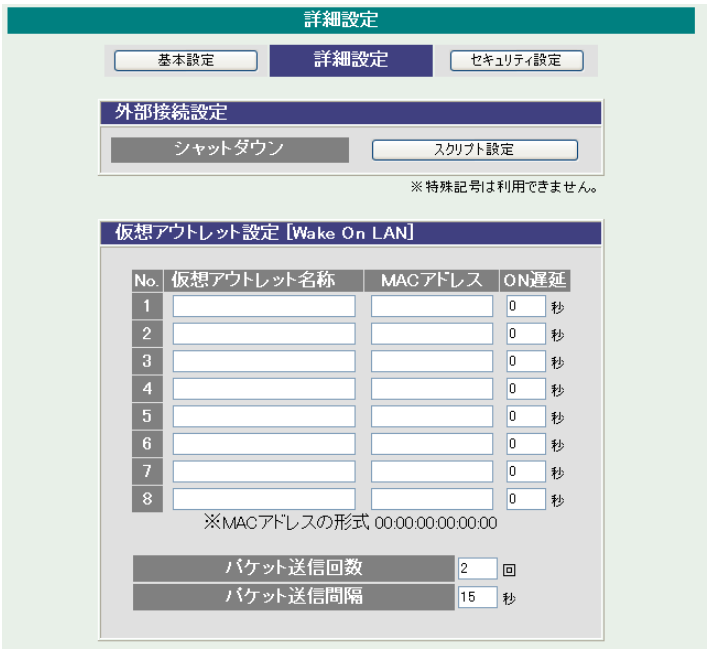
注意　本体起動時の接点出力はスケジュール設定に従います。スケジュール設定がない場合は本体電源断時の状態に戻します。「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

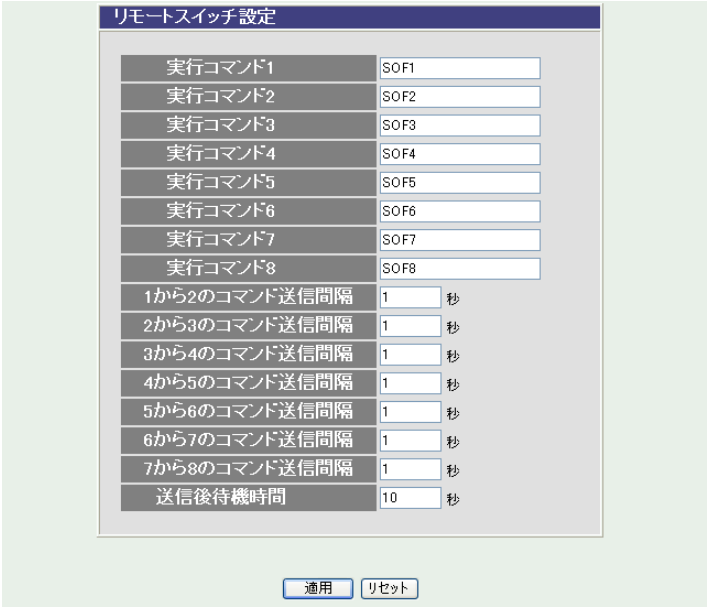
2-1-2　詳細設定

本装置の外部接続、仮想アウトレット及び COM ポート、リモートスイッチに関する設定します。

基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面





2-1-2-1　外部接続設定

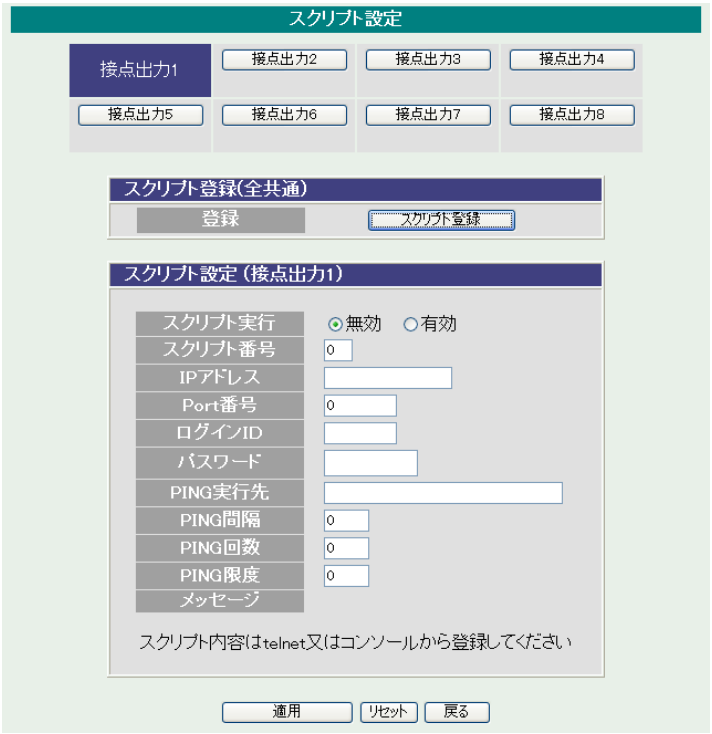
外部接続に関する設定をします。

2-1-2-1-1　シャットダウンスクリプト設定

本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

1）「スクリプト設定」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

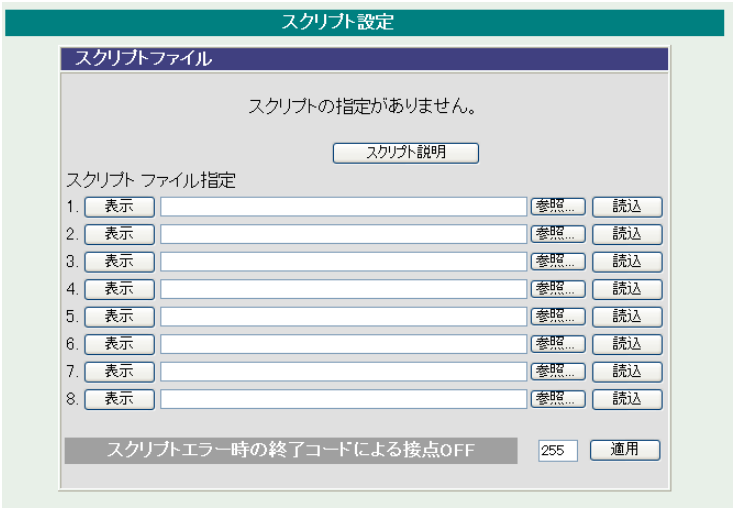


① スクリプト設定（接点出力）

スクリプト実行	：	無効、有効
スクリプト番号	：	０（デフォルト）
		１（Windows 用設定が登録済）
ＩＰアドレス	：	ＩＰアドレスを設定します。
Ｐｏｒｔ番号	：	０（デフォルト）
ログインＩＤ	：	最大半角８文字。
パスワード	：	最大半角 16 文字
ＰＩＮG実行先	：	
ＰＩＮG間隔	：	０（デフォルト）
ＰＩＮG回数	：	０（デフォルト）
ＰＩＮG限度	：	０（デフォルト）
メッセージ		

2)シャットダウンスクリプトを設定する接点出力Noをクリックし、選択します。
「スクリプト登録」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面



スクリプトファイル指定項目に、スクリプトファイルを選択します。
スクリプトエラー時の終了コードによる接点 OFF
終了コードがこの値を超えていたら、接点をOFF しません。
「0」なら、終了コードが0のときだけオフにします。
「255」なら、どんなときにもオフにします。

「スクリプト説明」をクリックするとスクリプト説明画面が表示されます。

詳細は「第９章　シャットダウンスクリプト」をご参照ください

2-1-2-2　仮想アウトレット設定

仮想アウトレットに関する設定をします。

仮想アウトレット名称	：	仮想アウトレット名称を設定します。 全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
MACアドレス	デフォルト	： 00:00:00:00:00:00
ON遅延（秒）	デフォルト	： 0
パケット送信回数（回）	デフォルト	： 2
パケット送信間隔（秒）	デフォルト	： 15

仮想アウトレット
仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

2-1-2-3　リモートスイッチ設定

リモートスイッチに関する設定をします。

実行コマンド 1-8	：	SONn、SOFn、SSRn（n＝1～8） MSON、MSOF
１から２のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
２から３のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
３から４のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
４から５のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
５から６のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
６から７のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
７から８のコマンド送信間隔	：	１ ～ 3600（秒）
送信後待機時間	：	10 ～ 3600（秒）

リモートスイッチ

スイッチが３秒間押されると、設定したコマンドを、１から８まで各コマンド送信間隔ごとに実行します。送信後待機時間が終了するまで次のスイッチ入力は無視します。

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意　「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。リモートスイッチ（RP-SW001）は、ご利用いただけません。本装置前面のSWスイッチを押下するとリモートスイッチと同じ動作ができます。

2-1-3　セキュリティ設定

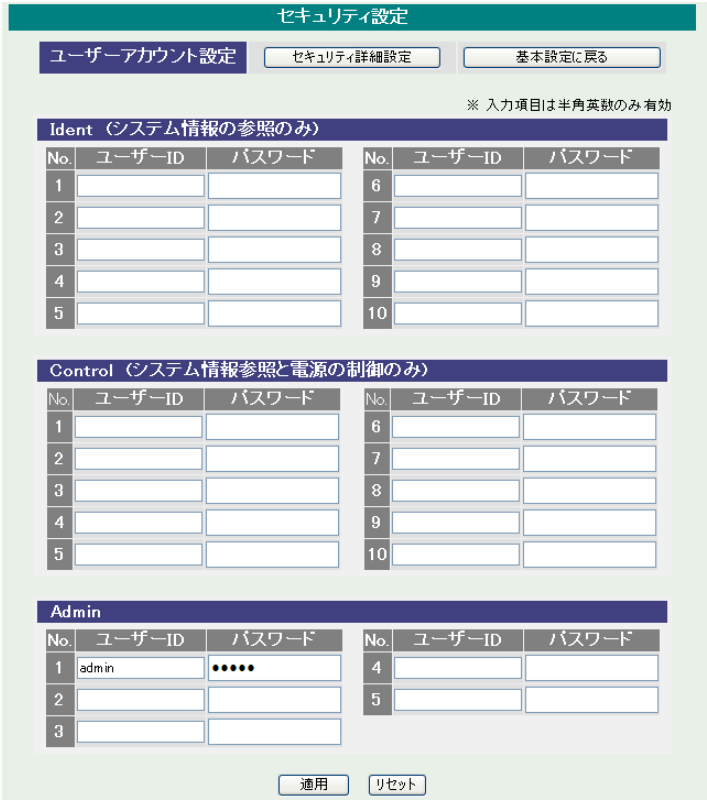
本装置にセキュリティに関する設定をします。

2-1-3-1　ユーザーアカウント設定

（WEB および制御ユーティリティからのログイン時に有効）

1）「ユーザーアカウント設定」をクリックします。ユーザーアカウント設定画面が表示されます。

ユーザーアカウント設定画面



Ｉｄｅｎｔ　：　簡易情報表示と監視状態表示のみ（※　最大 10 件登録）

Ｃｏｎｔｒｏｌ：　簡易情報表示と監視状態表示及び接点出力の制御のみ（※　最大 10 件登録）

Ａｄｍｉｎ　：　全ての権限（※　最大５件登録）

ユーザーＩＤ　：　最大半角８文字　（重複不可）　（@は不可）
パスワード　：　最大半角 16 文字　（重複可）

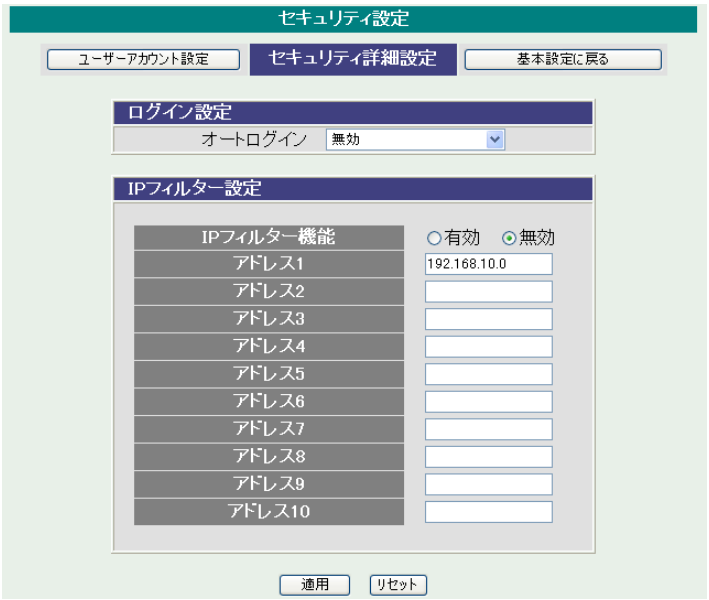
2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意　TELNET 用のパスワードは別途変更する必要があります。

2-1-3-2　セキュリティ詳細設定

1)「セキュリティ詳細設定」をクリックします。セキュリティ詳細設定画面が表示されます。

セキュリティ詳細設定画面



① ログイン設定

オートログイン　：　有効　無効

オートログインを有効にチェックすると、ブラウザでのログイン時に「ユーザーID」「パスワード」を省略して本器に接続できます。

② ＩPフィルター設定

ＩPフィルター機能　：　有効　無効

アドレス　：　0.0.0.0（デフォルト）

（最大 10 アドレス）

登録するアドレスは、最後のビットを０にします。
アドレス１のデフォルト値［192.168.10.0］ですと、
192.168.10.1～192.168.10.255 からのみ接続可能となります。

なお、フィルターの範囲を変更するには、IP フィルターのマスク設定を変更する必要があります。（アドレス２以降の場合は、範囲が 0 になっているため、かならず変更が必要になります。）

変数名と設定方法は以下のとおりです。
IP フィルタアドレスの変数名［ipFilterAddr］
IP フィルタマスクの変数名［ipFilterMask］

マスクとアドレスの関係
　ipFilterAddr に登録するアドレスは、マスクがかからない部分をゼロにする。

例 1
　ipFilterMask=255.255.255.0
　ipFilterAddr=192.168.10.0
　　接続可能なアドレス　192.168.10.1～192.168.10.255

例 2
　ipFilterMask=255.255.255.100
　ipFilterAddr=192.168.10.100
　　接続可能なアドレス　192.168.10.100～192.168.10.255

変数は配列型です。0.0.0.0 は空白となります。

注意	「適用」をクリックしないと設定した内容が有効になりません。

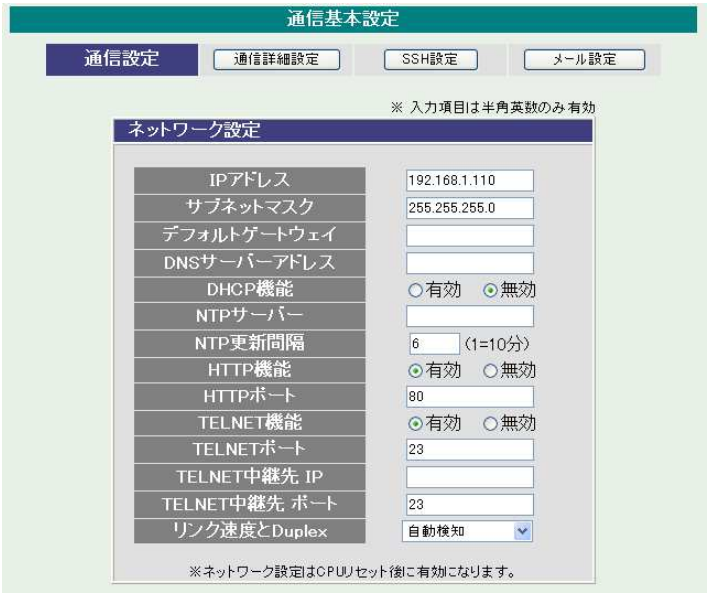
2-2　通信設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

2-2-1　通信基本設定

1)「通信基本設定」をクリックします。通信基本設定画面が表示されます。

通信基本設定画面



① ネットワーク設定

ＩＰアドレス	デフォルト	：	192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	：	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	：	0.0.0.0
ＤＮＳサーバアドレス	デフォルト	：	0.0.0.0
ＤＨＣＰ機能		：	有効　無効
NTP サーバ	デフォルト	：	0.0.0.0
HTTP 機能		：	有効　無効
HTTP ポート	デフォルト	：	80
TELNET 機能		：	有効　無効
TELNET ポート	デフォルト	：	23
TELNET 中継先ＩＰ	デフォルト	：	0.0.0.0
TELNET 中継先ポート	デフォルト	：	23
リンク速度とＤｕｐｌｅｘ	デフォルト	：	自動検知

② 関連項目

無通信タイマー	：	無通信の時間を設定します。
WEB 自動更新機能	：	有効、無効を設定します。
WEB 自動更新間隔	：	WEB 自動更新間隔の時間を設定します。

③ ダイレクトWEBコマンド制御

ダイレクトWEBコマンド	：	有効、無効を設定します。
実行後の動作	：	実行後の動作を設定します。
指定アドレス	：	指定アドレスを設定します。
接点出力表示制限	：	チェックした接点出力を表示します。
表示制限	：	チェックした表示制限項目を表示します。

外部のネットワークから接続するため、IP アドレスを固定にしてルーターのNAT やＩＰマスカレード機能を利用する場合は、DHCP を無効にします。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

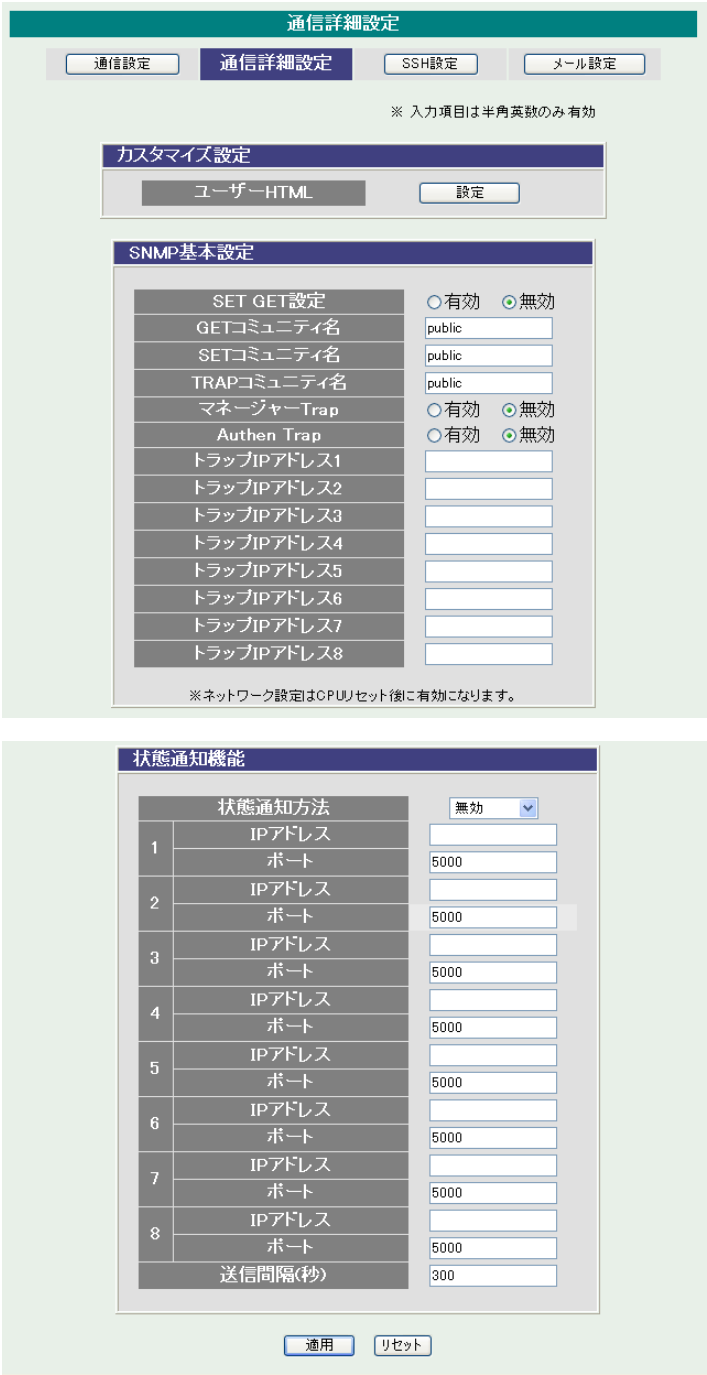
注意　DHCP 利用中、IP アドレスの取り直しが行われると本装置は自動的に CPURESET を行います。

2-2-2　通信詳細設定

通信詳細に関する設定をします。

1)「通信詳細設定」をクリックします。通信詳細設定画面が表示されます。

通信詳細設定画面

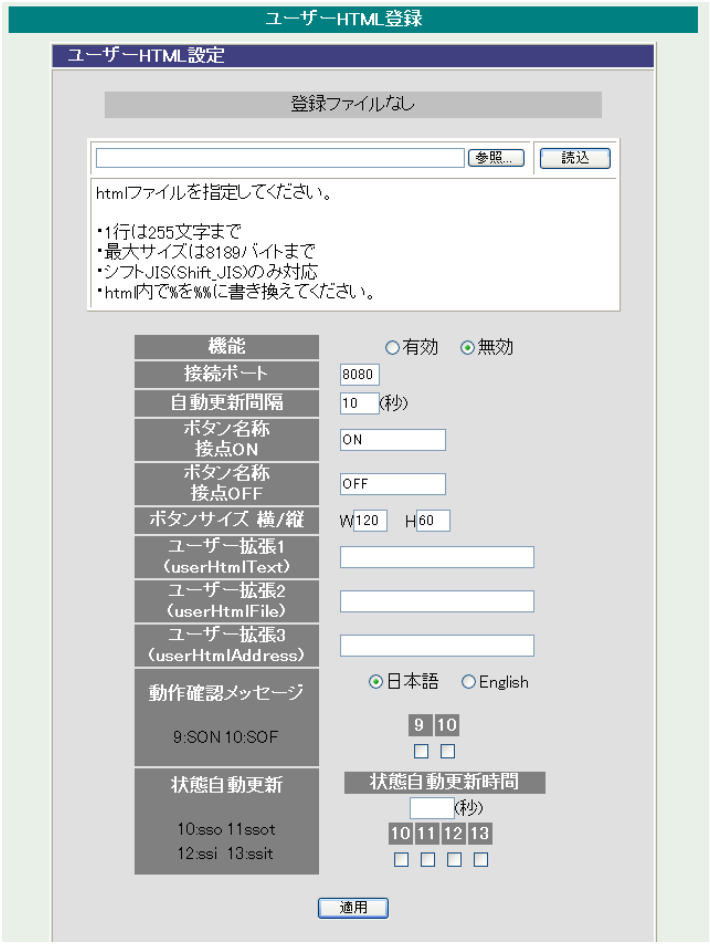


2-2-3　ユーザーHTML 設定

ユーザーHTML、SNMP に関する設定をします。

1）カスタマイズ設定、ユーザーHTML の「設定」をクリックします。ユーザーHTML 設定画面が表示されます。

ユーザーHTML 設定画面



① ユーザーHTML 設定

機能		：	有効　無効
接続ポート	デフォルト	：	8080
自動更新間隔	デフォルト	：	10（秒）
ボタン名称　接点 ON	デフォルト	：	ON
ボタン名称　接点 OFF	デフォルト	：	OFF
ボタンサイズ　縦/横	デフォルト	：	H120　W60
ユーザー拡張１(userHtmlText)			
ユーザー拡張２(userHtmlFile)			
ユーザー拡張３(userHtmlAddress)			（最大８ＩＰアドレス）
動作確認メッセージ			
状態自動更新			

注意　ユーザーHTML に関する Sample データ及び情報を記載しておりますので以下のページをご覧ください。
http://www.meikyo.co.jp/support/index.htm

2）SNMP に関する設定をします。

① SNMP基本設定

SETGET 設定		：	有効　無効
GET コミュニティ名	デフォルト	：	public
SET コミュニティ名	デフォルト	：	public
TRAP コミュニティ名	デフォルト	：	public
マネージャーTrap		：	有効　無効
AuthenTpap		：	有効　無効
トラップＩＰアドレス	デフォルト	：	255.255.255.255 (最大８ＩＰアドレス)

② 状態通知機能

状態通知方法		：	無効、SYSLOG、RPC-EYE
通知先センターアドレス 1-8	デフォルト	：	0.0.0.0
通知先センターポート 1-8	デフォルト	：	5000
送信間隔(秒)	デフォルト	：	300

3）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意　「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-2-4　SSH 設定

SSH サーバ機能の設定を行います。

1）「SSH 設定」をクリックします。SSH 設定設定画面が表示されます。

SSH 設定設定画面

① ＳＳＨ　ＫＥＹ表示

sshPublicDsaKey	：	SSH.DSA 公開鍵を表示します。
sshPublicRsaKey	：	SSH.RSA 公開鍵を表示します。
sshKnownHost1-8	：	SSH クライアントとして接続したときにサーバから受け取ったキーを表示します。

② ＳＳＨ設定

SSHサーバー	：	サーバ機能の有効/無効を選択 （デフォルト：無効）
SSHサーバーのポート	：	SSHサーバのポート番号を設定 （デフォルト：22）
SSHサーバー無通信時間（分）	：	SSHサーバの無通信時間を設定 （デフォルト：10 分）
SSHサーバー名	：	SSHサーバー名を設定 （デフォルト：admin）
SSHサーバーパスワード	：	SSHサーバーのパスワードを設定

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3）ＳＳＨサーバ機能を使うためにはＤＳＡキーとＲＳＡキーを作成する必要があります。ＴＥＬＮＥＴまたはシリアル通信でログインした後、次のコマンドを実行します。

ＫＥＹＧＥＮ＿DSA
ＫＥＹＧＥＮ＿ＲSA　　（＿はスペース）

作成中[.]が表示されます。作成には数分間必要です。ＣＰＵリセット後有効になります。

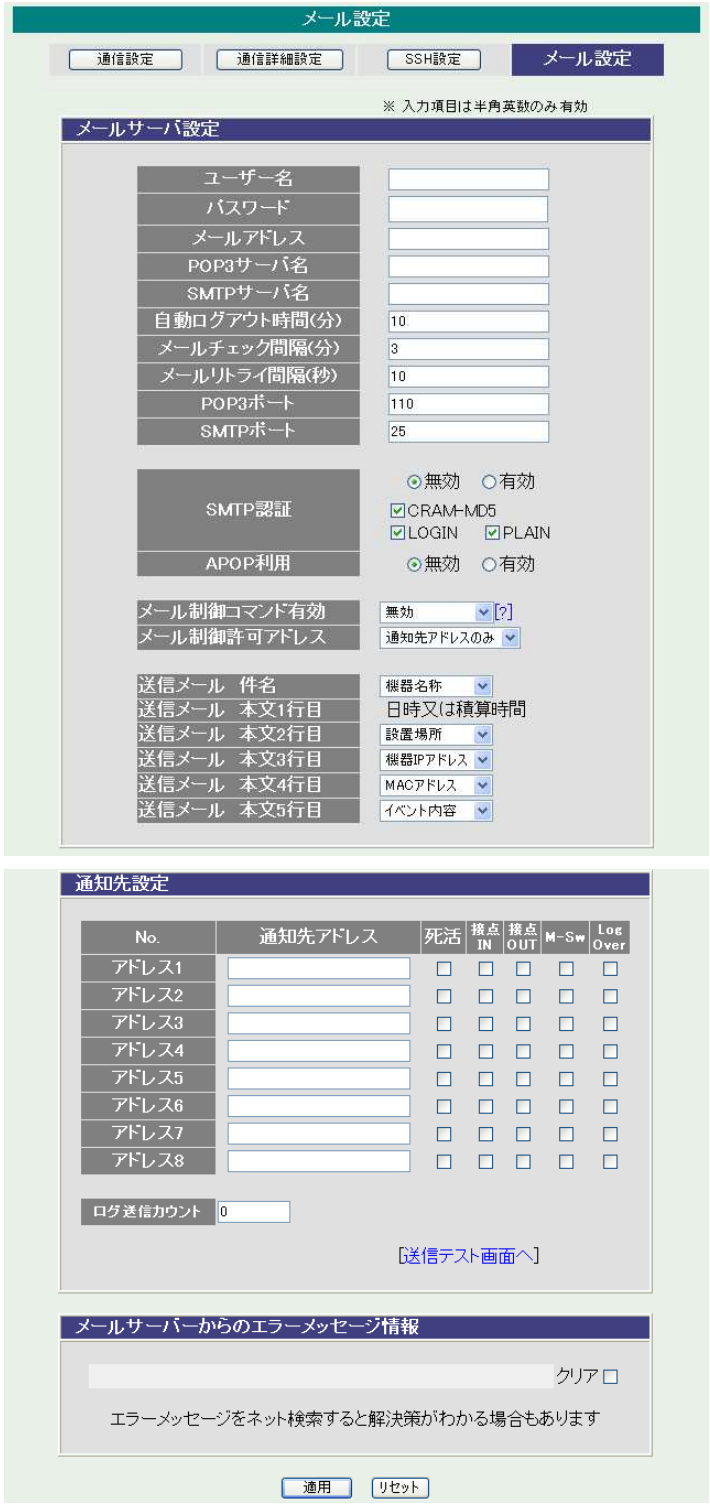
注意　　SSH は、OPEN SSH 5.1p1 を使用しています。

2-2-5　メール設定

監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。

1）「メール設定」をクリックします。

メール設定画面



① メールサーバ設定

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、POP サーバ名、SMTP サーバ名は、プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

自動ログアウト時間（分）	デフォルト	： 10
メールチェック間隔（分）	デフォルト	： 3
メールリトライ間隔（秒）	デフォルト	： 10

（変数 mailRetryCount で設定した回数送信します。デフォルト：3 回）

ＰＯＰ３ポート	デフォルト	： 110
ＳＭＴＰポート	デフォルト	： 25

ＳＭＴＰ認証	：	有効　無効 認証方式を選択します。
ＡＰＯＰ利用	：	有効　無効

メール制御コマンド有効 ： 無効､ログイン方式､パスワード方式より選択します。

メール制御許可アドレス ： 制限なし、通知先アドレスのみより選択します。

送信メール　件名	６点より選択（表示無し、機器名称、設置場所、機器ＩＰアドレス、ＭＡＣアドレス、イベント内容）より選択します。
送信メール　本文１行目	日時又は積算時間
送信メール　本文２行目	６点より選択（送信メール　件名と同項目）
送信メール　本文３行目	６点より選択（送信メール　件名と同項目）
送信メール　本文４行目	６点より選択（送信メール　件名と同項目）
送信メール　本文５行目	６点より選択（送信メール　件名と同項目）

*詳細は６章　4．メールからのコマンド参照して下さい。

② 通知先設定

通知先アドレス

通知するメールアドレスを設定します。

最大８件設定できます。

イベント　：死活、接点 IN、接点 OUT、M-Sw

チェックしたイベントに連動してメールが送信されます。例えば､「死活」では死活監視が[異常]または[回復]に変化した時にメールを送信します。

PPPoE

チェックをつけたアドレスに､PPPoE 通信で取得したＩＰアドレスなどの情報をメールします。

LogOver

設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。

ログ送信カウント

（MAX：20）（0 の時は送信しません。）

③　メールサーバーからのエラーメッセージ情報
メールに失敗したエラー情報を表示します。
クリアにチェックして「適用」をクリックすると消去できます。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3）「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させテストメール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスにテストメールを送信します。

送信テスト画面

注意　「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。
メール送信のみの利用で POP 認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデーターを設定してください。
設定したメールアドレスのメールサーバ内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバ内のメールをチェックした後、削除されます。

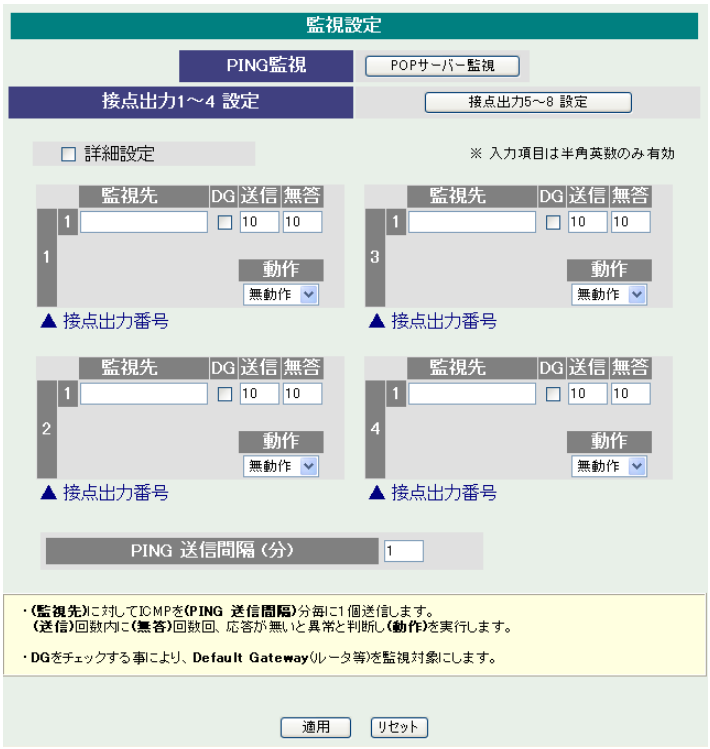
2-3　監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

2-3-1　ＰＩＮＧ監視

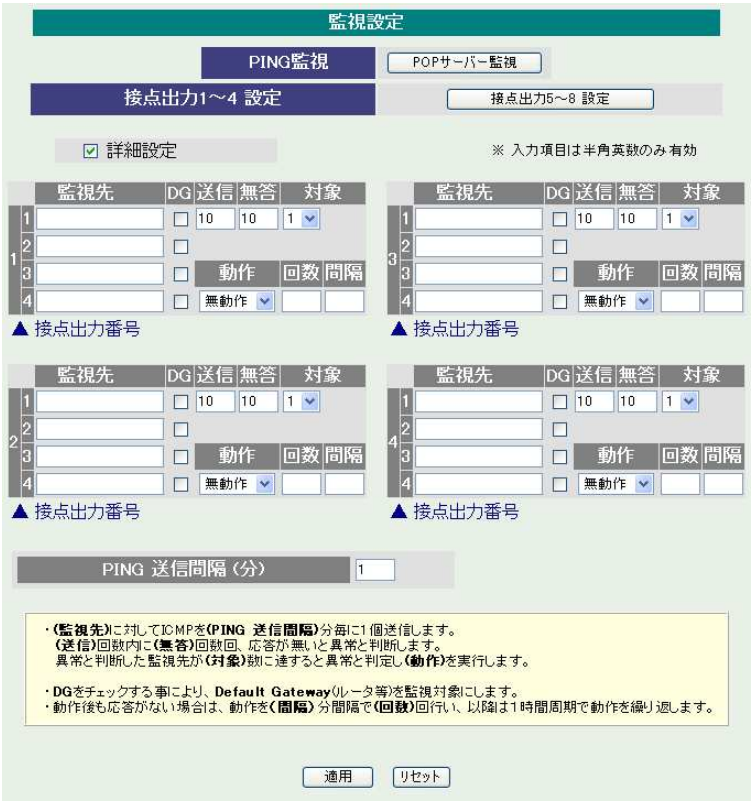
1）「監視設定」をクリックします、ＰＩＮＧ監視設定画面が表示されます。

ＰＩNG監視設定画面



「詳細設定」にチェックし、「適用」をクリックします。ＰＩＮＧ監視詳細設定画面が表示されます。

ＰＩＮＧ監視詳細設定画面



① 監視先： 監視するＩＰアドレス又はドメイン名を設定します。
各接点出力に最大４ヶ所設定できます。（詳細設定のみ）
例 ＩＰアドレス ： 192.168.0.1
例 ドメイン名 ： www.meikyo.co.jp

② ＤＧ： チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。

③ 送信： 判断するための送信する回数を設定します。
1～100 の整数
④ 無答： 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します
1～100 の整数
⑤ 対象： 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1～4（詳細設定のみ）
⑥ 動作： 動作を選択します。
無動作 ：ＰＩＮＧ監視を行いません。
ログのみ ：ログに記録します。
ON ：接点出力をＯＮします。
OFF ：接点出力を OFF します。
⑦ PING 送信間隔（分）： ＩＣＭＰエコー要求パケットの送信間隔を設定します。 1～60 の整数

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

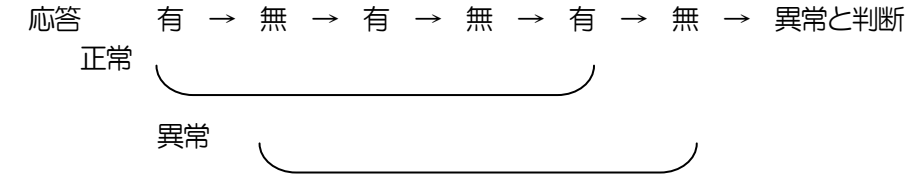
監視設定が有効な接点出力は接点出力番号の背景色が「青色」に変わります。
また、ＰＩＮＧ監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

注意 「異常」中は、再度、条件が成立しても動作しません。また、正常に回復した時に、「動作」の逆の動作は行いません。

ＰＩＮＧ監視の仕組みと動作

監視先アドレスに対して［PING 送信間隔］で設定した間隔でＩＣＭＰエコー要求パケットを１個送出し、応答を待ちます。設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を異常と判断します。異常と判断された監視先が［対象」数に達すると、その接点出力の監視対象を異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

判定例）　送信回数：５　無答回数：３　の場合



異常と判断した監視先が、対象数に達すると、接点出力の監視対象を異常と判定し動作します。
異常と判定した後、

監視先すべてから応答があると→「正常」と判定します。
一部の監視先から応答があり、異常と判断した監視先が対象数を下回ると→「回復中」と判定します。
「正常」「回復中」になった後は、再び、同じ条件で監視を行います。

2-3-2　ＰＯＰサーバ監視

1）「ＰＯＰサーバ監視」をクリックします、ＰＯＰサーバ監視設定画面が表示されます。

ＰＯＰサーバ監視設定画面

① POPサーバ監視

接続障害回数　：　POPサーバを異常と判断する回数を設定します。

動作　：　無動作　：監視を行いません。

ログのみ：ログに記録します。

ON　：ログに記録し、接点出力をＯＮします。

OFF　：ログに記録し、接点出力を OFF します。

動作はＰＩNG監視と共通の設定になります。

② 現在のＰOPサーバ設定

POPサーバ接続障害回数　：　POPサーバ接続障害回数を表示します。

メールチェック間隔（分）　：　ＰＯＰサーバのチェック間隔

デフォルト　３分

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意　POPサーバ監視を行う場合はＰOＰ３サーバの設定が必要になります。
POPサーバ監視とＰＩNG監視の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

2-4　スケジュール設定

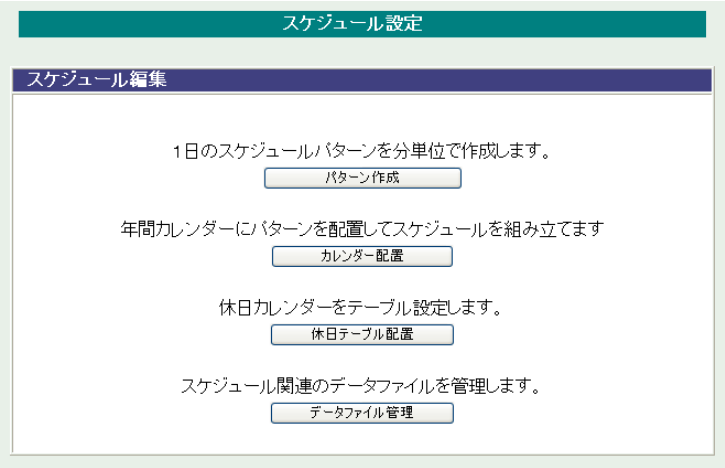
本装置のスケジュールに関する設定をします。

スケジュールは、一日のパターンを分単位で作成し、そのパターンを指定の曜日、月日に割り当てることにより作成します。パターンは最大 20 個まで作成できますから、週中と週末のパターンを変えたり、特定の日や、休日用のパターンを作成したりできます。

パターン作成では、一日のパターンを作成します。
カレンダー配置では、接点出力毎に、パターンをカレンダーに割り当てて作成します。
休日テーブル配置では、オリジナルの休日テーブルを作成します。（初期値は一般のカレンダー通り）
データファイル管理では、設定内容をファイル形式で保存できるようにします。

1）「スケジュール設定」をクリックします。

スケジュール設定画面



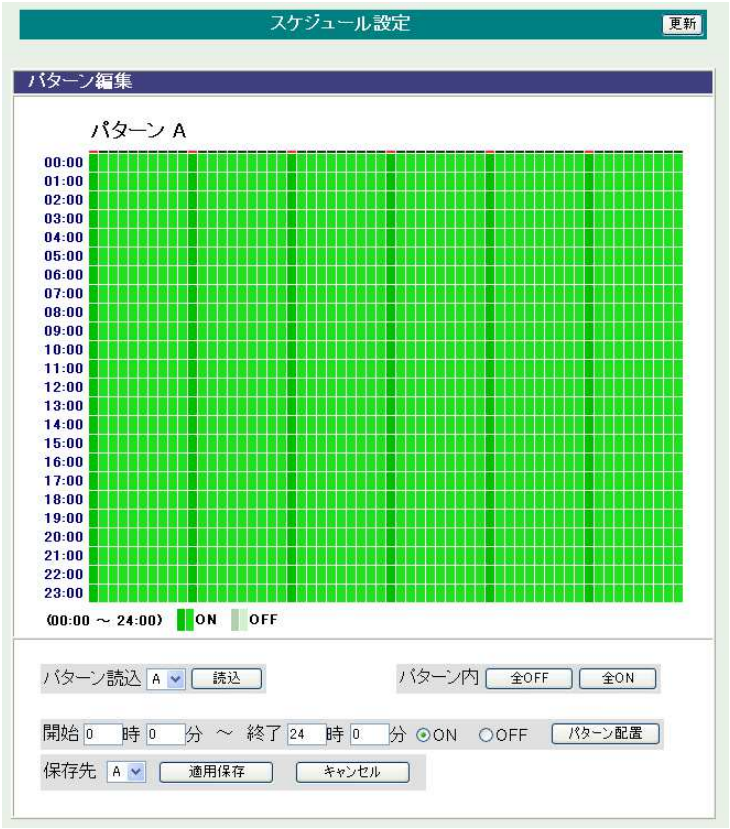
① スケジュール編集

パターン作成	：	１日のスケジュールパターンを分単位で作成します。
カレンダー配置	：	年間カレンダーにパターンを配置してスケジュールを組み立てます。
休日テーブル配置	：	休日カレンダーをテーブル設定します。
データファイル管理	：	スケジュール関連のデータファイルを管理します。

2-4-1　パターン編集

1）スケジュール設定画面の「パターン作成」をクリックします。

パターン編集画面



2）パターン読込より編集するパターンを選択し、「読込」ボタンをクリックします。
　　最大20パターン編集できます。

パターン編集

パターン内	全ＯＦＦ	：	全てをＯＦＦパターンにします。
	全ON	：	全てをＯＮパターンにします。
時間指定		：	開始から終了時間をＯＮ、ＯＦＦでパターン
開始　時　分～　終了　時　分			配置します。

3）パターン編集終了後、保存先を選択し「適用保存」をクリックします。

2-4-2　カレンダー配置

1）スケジュール設定画面の「カレンダー配置」をクリックします。

スケジュール配置先画面

2）カレンダー配置する接点出力の「スケジュール設定」をクリックします。

カレンダー配置画面

① 年月設定
年月を指定し配置するカレンダーを選択します。

② 曜日設定
曜日毎にスケジュールパターンを配置し、スケジュールパターンを配置します。

③ 特定日設定
毎月　日　：　毎月の特定日を設定日にスケジュールパターンを配置します。

毎第　週　曜　：　毎月の特定週、曜日にスケジュールパターンを配置します。

毎年　月　日　：　毎年の特定月日にスケジュールパターンを配置します。

休日指定　：　毎年の休日にスケジュールパターンを配置します。

一度指定　：　特定の年月日にスケジュールパターンを配置します。
年　月　日
＊　右側の欄に「特定日設定」で配置した項目がリスト表示されます。

④ スケジュール取り込み
接点出力番号を選択し、「読み込み」をクリックすると選択した接点出力と同じスケジュールパターンを配置します。
＊　読み込んだ後、適用保存をクリックするとカレンダーの表示が変わります。

⑤ 適用保存
「適用保存」をクリックし配置したカレンダーを保存します。

⑥ スケジュールリスト削除
「削除番号」に特定日設定で設定したスケジュールリスト番号を選択し、「削除」をクリックし項目を削除できます。

3）スケジュール配置先画面に戻りスケジュールの「実行ボタン」をクリックします。

注意　スケジュールの優先度は、一度指定 ＞ 休日指定 ＞ 毎年 ＞ 毎第ｎ週x曜日 ＞ 毎月 ＞ 毎x曜日　となっています。
スケジュール設定が設定されるととカレンダーの日付数字の隣にスケジュールパターンの英文字が付きます。
またカレンダーの日付をクリックして指定するとその日のスケジュールパターンが表示されます。
週間スケジュール以外の特定日設定は20個までとなります。

2-4-3　休日テーブル設定

1）スケジュール設定画面の「休日テーブル配置」をクリックします。

休日テーブル配置画面

① 年月設定
年月を指定し配置するカレンダーを選択します。

② 休日指定
年月日を指定し、追加、削除を選択し「設置」をクリックします。
（設定された日はピンク色の背景色に赤文字に変わります。）

③ 休日初期化
「休日初期化」をクリックすると設定した休日が初期化されます。

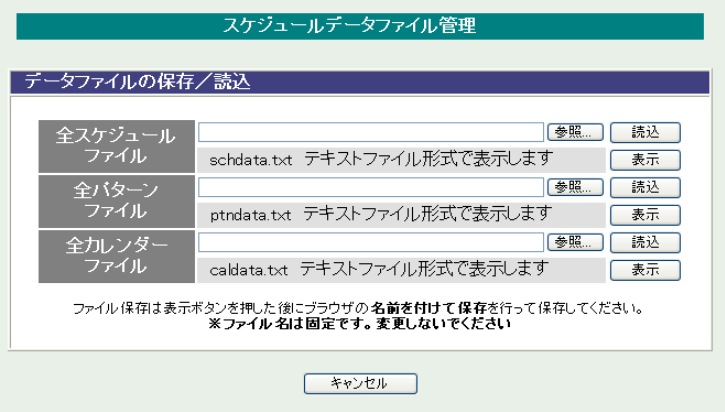
2）設定が終了しましたら「適用保存」をクリックします。

注意　「適用保存」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。
休日テーブルは設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-4-4　データファイル管理

1）スケジュール設定画面の「データファイル管理」をクリックします。

データファイル管理画面



① ファイル保存／読込

「ファイル保存／読込」をクリックし、ファイルの保存／読込します。

保存方法

表示をクリックすると、別のブラウザが開き設定内容が表示されます。

ブラウザの機能を利用して、名前をつけて保存します。（テキストファイル）

ファイル名は変更しないでください。

読込方法

参照をクリックしてファイルを選びます。保存したファイルを選択します。

ファイル名が表示されたら読み込みをクリックします。

全スケジュールファイル	schdata.txt
全パターンファイル	ptndata.txt
全カレンダーファイル（休日カレンダー情報含む）	caldata.txt

＊　読込んだ後、ＣＰＵリセットにより設定が反映されます。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

> **注意**　スケジュール機能で接点出力毎に実行に設定しませんとスケジュールは動作しません。
> 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-4-5　コマンドによるスケジュールデータファイル保存／読込

TELNET 通信及びシリアル通信を介してコマンドによるスケジュールデータファイル保存、読込が出来ます。

・ アップロードの開始
SCHUPLOAD_n　　（短縮形：SCHUL）
ｎ：パラメータ
　１：スケジュールデータ
　２：パターンデータ
　３：カレンダーデータ
リザルトコード
　230：コマンド受理、データ転送待ち状態
　231：正常終了
※アンダーバーはスペースを表します。

・ アップロードを中断
SCHUPLOADCANCEL（短縮形：SCHULC）
リザルトコード
　232：正常終了

・ ダウンロードの開始
SCHDOWNLOAD_n　　（短縮形：SCHDL）
ｎ：パラメータ
　１：スケジュールデータ
　２：パターンデータ
　３：カレンダーデータ
※アンダーバーはスペースを表します。

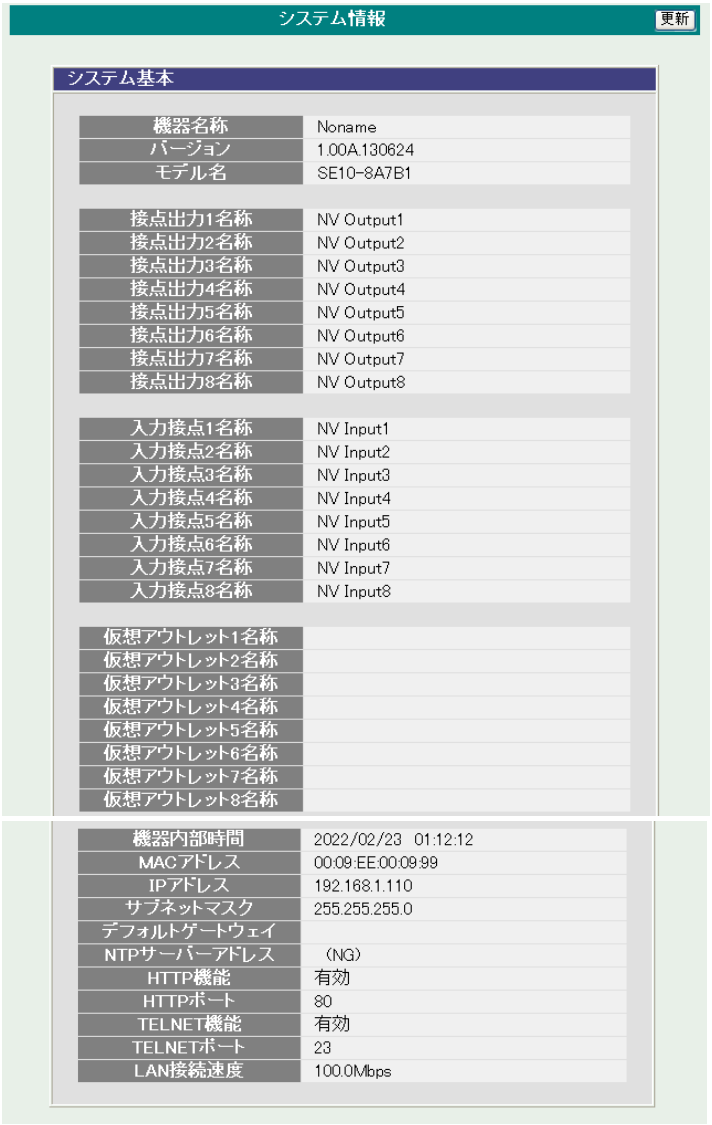
注意　TELNET 通信及びシリアル通信の接続は「第五章　その他の設定」を参照してください。
当社ホームページ（http://www.meikyo.co.jp）よりＲＳＣスケジュールデータ管理ソフトをダウンロードし、ご利用して頂ければ、スケジュールデータファイルの保存／読込が簡易に行うことが出来ます。

2-5　システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

1）「システム情報」をクリックします。

システム情報画面

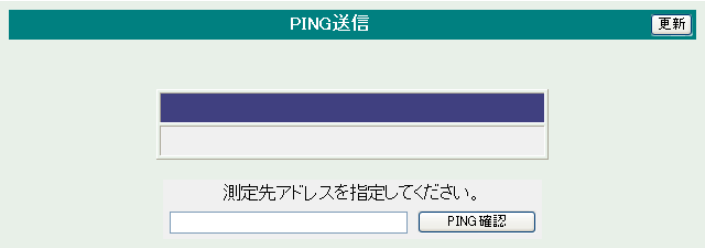


2-6　ＰＩNG送信

本装置からのＰＩNG送信の確認できます。

1)「ＰＩNG送信」をクリックします。

ＰＩNG送信画面



① 「測定先アドレスを指定してください。」の欄に測定先アドレスを入力し、「ＰＩNG確認」をクリックして下さい。

② 測定中は「測定中」の表示がされます。

③ 測定結果が表示されます。

正常　：Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyyms
　　xxx.xxx.xxx.xxx　：測定先アドレス
　　yyy　：応答時間(ミリ秒)

異常　：Request timed out.
　　応答が異常時

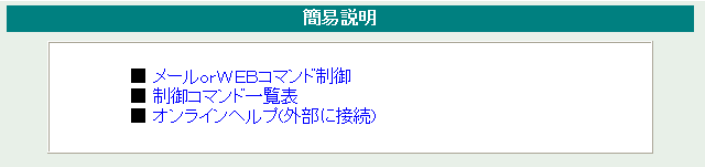
異常　：Domain name not found.
　　ドメイン名が存在しない

2-7　簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

1)「簡易説明」をクリックします。

簡易説明画面



メール orＷＥＢコマンド制御

メールからの制御

ログイン方式

パスワード方式

WEB からダイレクトコマンド制御

WEB コマンドでの制御方法

利用可能コマンド

制御コマンド一覧表

オンラインヘルプ（外部に接続）

3．状態表示項目

3-1 簡易情報表示

現在の本装置の接点情報、接点入出力情報を表示します。

1）「簡易情報表示」をクリックします。

簡易情報表示画面

注意　簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

3-2　監視状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

1）「監視状態表示」をクリックします。

監視状態表示画面

① 接点出力監視状態／判定条件

接点　：　接点の状態を表示します。

死活判定　：　PING 監視および POP サーバ監視の判定結果を表示します。
正常：異常な監視先が対象数未満、かつ POP サーバ正常。
異常：異常な監視先が対象数以上、あるいは POP サーバ異常。
回復中：動作後、異常な監視先が対象数未満だが、異常な監視先が残っている。POP サーバは正常。

実行数　：　PING 監視と POP サーバ監視の実行された動作の回数を表示します。

送信数　：　PING 監視のＩＣＭＰエコー要求送信回数設定値を表示します。

無応答　：　PING 監視の無応答回数設定値を表示します。

対象数　：　PING 監視の対象数設定値を表示します。

動作　：　PING 監視と POP サーバ監視の動作を表示します。

② 監視先状態

状態　：　接点出力毎に各監視先の応答状態を表示します。

無応答数　：　ICMP エコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

③ ＰＩNG応答時間

応答時間　：　監視先の応答時間を表示します。

④ 機器情報

ＰＯＰサーバ接続障害回数　：　ＰＯＰサーバへの接続障害回数を表示します。

3-3　イベントログ表示

現在までのイベントログ、温度センサーログを表示します。

3-3-1　イベントログ

1)「イベントログ表示」をクリックします。

イベントログ表示画面

2)「 更新 」を押すと最新状態に更新します。

前ページ	：	前ページを表示します。
次ページ	：	次ページを表示します。
先頭ページ	：	先頭ページを表示します。
最終ページ	：	最終ページを表示します。
全ログクリア	：	ログを消去します。

注意　1 ページは 100 項目単位で表示します。最大 10 ページ、1000 項目のログを表示可能です。

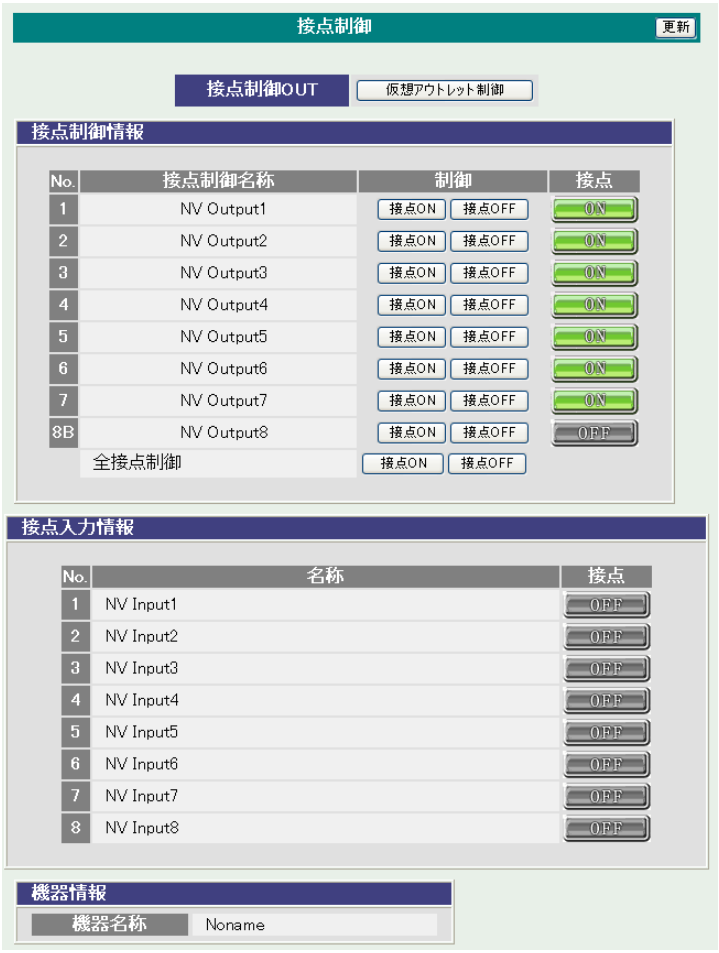
４．接点制御

本装置に接続されたデバイスの接点制御をします。

4-1　接点制御

1）「接点制御」をクリックします。

接点制御画面



接点出力情報

① 接点制御名称

各接点出力の名称を表します。

② 動作

接点ＯＮ　　：　接点出力を開始します。

接点ＯＦＦ　　：　接点出力を停止します。

接点8は、B 接点です。ON 動作で OFF、OFF 動作で ON の結果となります。

③ 接点

現在の接点の状態を表します。

（更新されないと最新の状態が表示されません。）

④ 全接点制御

接点ＯＮ　　：　全接点出力を開始します。

接点ＯＦＦ　　：　全接点出力を停止します。

接点8は、B 接点です。ON 動作で OFF、OFF 動作で ON の結果となります。

接点入力情報

① 名称

各接点入力の名称を表します。

④ 接点

現在の接点の状態を表します。

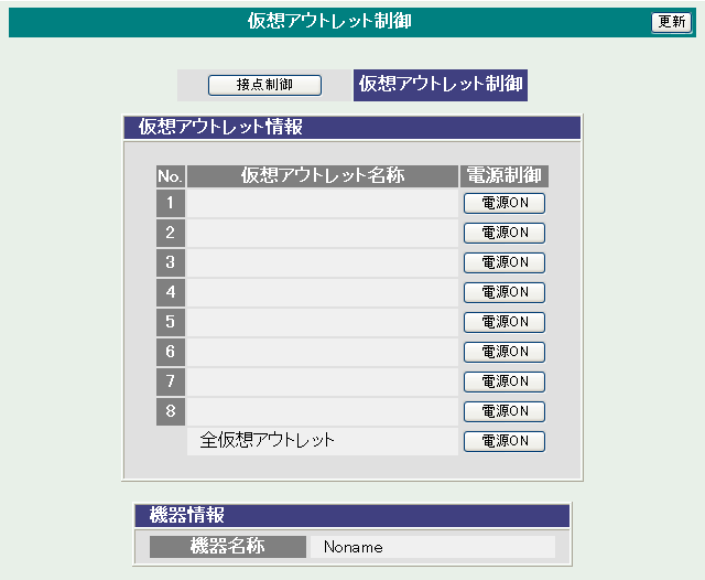
（更新されないと最新の状態が表示されません。）

2）　「更新」をクリックすると最新の接点状態を取得します。

4-2　仮想アウトレット制御

1）「仮想アウトレット制御」をクリックします。

仮想アウトレット制御画面



仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされたMACアドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

① 個別仮想アウトレット制御の動作

電源ＯＮ　　：　マジックパケットを送出します。

② 全仮想アウトレット制御の動作

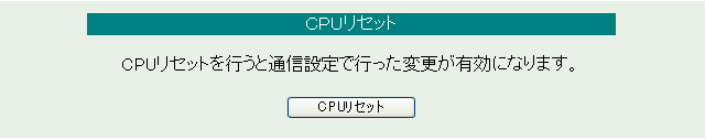
電源ＯＮ　　：　全仮想アウトレットへマジックパケットを送出します。

５．ＣＰＵリセット

本装置の設定変更を有効にします。

1）「CPU リセット」をクリックします。

CPU リセット画面



2）CPU リセット画面の「CPU リセット」をクリックします。

注意	「CPU リセット」をクリックすると設定した内容が有効になります。なお、「CPU リセット」ボタンをクリックすると通信が切断されますが、接点の状態は現状のまま保持されます。

第５章
その他の設定

１．ＴＥＬＮＥＴによる設定

1）RPCサーチソフトで検索した機器を選択し、「ＴＥＬＮＥＴ接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したＩＰアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1 の場合
ＩＰアドレス　　：192.168.10.1
TELNET ポート番号　　：　23

「telnet＿192.168.10.1＿23」
※アンダーバーはスペースを表します。

2）プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220　SE10-8A7B1　(Noname) server ready

3）任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。
「OK」の応答があります。

注意　ブラウザ接続時のパスワードとＴＥＮＬＥＴ接続時のパスワードは別になります。ＴＥＮＬＥＴ接続時とシリアル接続時のパスワードは共通になります。ＰＡＳＳコマンドで変更してください。デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

1-1　ＴＥＬＮＥＴコマンドによる設定

1）RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「ＴＥＬＮＥＴ接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したＩＰアドレスを指定し、TELNET で本装置にログインします。

2）設定します。コマンドや変数などを入力し＜Enter＞キーで実行します。
（ＩＰアドレスなど一部の設定は CPU リセット後に反映されます。）

■　TELNET 通信の設定関係コマンド

コ　マ　ン　ド	内　　容
? 変数名	変数の表示
LIST	全ての変数の値を表示
. 変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
CPURESET	CPU をリセットします。（接点状態は変化しません。）
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
LOGCLEAR	ログのクリア

※変数については「■変数一覧表」参照

■　「&SAVE」コマンドについて

環境（変数全体）を一括して待避・復元するためのコマンドです。
「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。ＴＥＬＮＥＴ用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。（最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。）ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

■　プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「 › 」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

変数名	：	promptMode
値	：	0（プロンプト表示無し）
	：	1（「 › 」のプロンプト表示 ）
	：	2（「 機器名 › 」のプロンプト表示 ）

■　ＳＳＨ通信からの設定について

ＴＥＬＮＥＴと同じようにＳＳＨ通信からも設定を行うことができます。

注意　設定変更後は、必ず「write」コマンドを実行してください。コマンドがないと設定が反映されません。また項目により CPU リセット後に設定が反映されます。
設定は「CPURESET」コマンドまたは本体 RESET ボタン押下後に反映されます。

第６章
その他の制御

１．ＴＥＬＮＥＴ接続による制御

本装置は TELNET サーバプログラムへ接続して、遠隔から接点制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。（SSH 通信でも同じことが行えます。）

1-1　TELNET 接続による制御

1）RPCサーチソフトで検索した機器を選択し、「ＴＥＬＮＥＴ接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したＩＰアドレスを以下のように指定し、TELNET で本装置にログインします。

192.168.10.1 の場合
ＩＰアドレス　　：192.168.10.1
TELNET ポート番号　　：　23

「telnet__192.168.10.1__23」
※アンダーバーはスペースを表します。

2）プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220　　SE10-8A7B1　(Noname) server ready

3）任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。「OK」の応答があります。

5）制御コマンドを入力して、< Enter >キーで実行します。

注意　ＴＥＬＮＥＴによりログイン中にも、他のＴＥＬＮＥＴからログインすることができます。ＬＯＧコマンドで履歴を確認するなどして操作が重ならないようご注意ください。

制御コマンド一覧表

コ マ ン ド	内　　容	
SONn	指定された接点の出力開始　n＝1～8	
SOFn	指定された接点の出力停止　n＝1～8	
SSRn	指定された接点の状態反転　n＝1～8	
MSON	全接点の出力開始	
MSOF	全接点の出力停止	
POS	全接点の状態取得 応答:mmmmmmmm 左側から接点1～8 m＝0:OFF　1:ON	
XPOS	全接点の状態詳細の取得 応答:ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX、ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側から接点1～8 A=0:OFF　1:ON B=0:OFF 遅延中　1:ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間	
OLS[n]	死活監視状態の表示　n＝1～8	
	nを省略すると全ての接点を表示します。	
	コンマ区切りで表示。	
	ContactNo.	接点番号[1～8]
	Contact Output	接点状態[0:Off　1:　On]
	Judge	判定[1:正常　2:異常　3:回復中]
	Action Count	Action 実行回数
	Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数
	NoEchoTime1	アドレス1の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
	Last Ping2	アドレス 2 の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount2	アドレス 2 の未応答回数
	NoEchoTime2	アドレス 2 の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
	Last Ping3	アドレス 3 の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount3	アドレス 3 の未応答回数
	NoEchoTime3	アドレス 3 の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
	Last Ping4	アドレス 4 の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount4	アドレス 4 の未応答回数
	NoEchoTime4	アドレス 4 の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
VER	バージョンの表示	
CPURESET	CPU をリセットします。(接点状態は変化しません。)	
SSOn	接点出力の状態を取得 nを省略すると全ての接点を表示します。 例)SSO2　NV_OUT #2 : OPENED	

SSIn	接点入力の状態を取得 nを省略すると全ての接点を表示します。 例）SSI2　NV_IN #2 : OPENED
DATE [yy/mm/dd]	年月日設定 例）DATE yy/mm/dd　yy：年　mm：月　dd：日
TIME [hh:mm:ss]	現在時刻設定（秒は省略可） 例）TIME hh:mm:ss　hh：時　mm：分　ss：秒
PING addr	ICMPを4回送信します。 例）PING [IP アドレス]
PROMPT=n	0（プロンプト表示無し） 1（「 > 」のプロンプト表示 ） 2（「 機器名 > 」のプロンプト表示 ） *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
TELNET	変数「IpAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね 40K バイト以下でご利用ください。
PASS	パスワードの変更　新しいパスワードを 2 回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
EXIT	回線切断　最初の文字が E, e, Q, q　の場合は EXIT と認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

応答コマンド

正常受付	：	Command OK
不正なコマンド	：	Unrecognized command
前コマンドの処理中のためコマンド実行せず	：	Last command is pending. Command failed.

注意　接点出力８は、B 接点です。ON 動作で OFF 動作の、OFF 動作で ON 動作の結果が生じます。

2. メールからの制御

メールを利用して接点制御ができます。
メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。メールからのコマンドには、ログイン方式とパスワード方式があります。また、メール制御許可アドレスが通知先アドレスのみの場合は、通知先として登録したメールアドレスからの制御のみが有効となります。

ログイン方式
１．本装置にメールを送信します。
（ア）件名（タイトル）は特に必要ありません。
（イ）本文１行目に「login」と入力します。
２．数分後、本装置からメールが届きます。
（ア）ログインのための数値が知らされます。
３．再び、本装置にメールを送信します。
（ア）件名（タイトル）は特に必要ありません。
（イ）本文１行目に、ログインのための数値を記入します。
（ウ）本文２行目以降にコマンドを記入します。
①コマンドを記入し改行を入れます。
②コマンドの「ＬＩＳＴ」と「＆ＳＡＶＥ」は使えません。
③「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の１文字だけでもログアウトします。
④自動ログアウト時間を経過するとログアウトします。
４．数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。
５．ログイン中でも他のメールからのログインを受付ます。

パスワード方式
１．本装置にメールを送信します。
（ア）件名（タイトル）は特に必要ありません。
（イ）本文１行目にパスワードを入力します。
（ウ）メールパスワードはＷｅｂブラウザの「メール設定」の「メール制御パスワード」で設定してください。
本文２行目以降にコマンドを入力します。
①コマンドを記入し改行を入れます。
②コマンドの「ＬＩＳＴ」と「＆ＳＡＶＥ」は使えません。
③「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の１文字だけでもログアウトします。
２．数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

3. ＷＥＢコマンドからの制御

WEB からダイレクトコマンドで接点制御ができます。

WEB コマンドでの制御方法

WEB コマンドは主に接点制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。
cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例:）ユーザーID amdin / パスワード magic / コマンド sof3
http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command= sof 3

変数名を省略も可能です。

?userid ＞?i &password ＞?p&command ＞?c
http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c= sof 3

利用可能コマンド

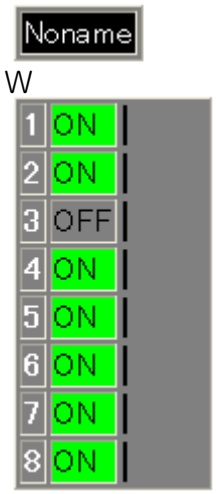
利用可能ユーザーLv[ident control admin]

VER
POS
XPOS
OLS
OLSn

利用可能ユーザーLv[control admin]

SONn
SOFn
MSON
MSOF
SSRn

WEBからダイレクトコマンドで接点制御しますと下記の「WEB画面」が表示されます。



機器設定：機器名称

ダイレクト WEB コマンド制御
接点表示制御
死活表示

注意　第４章「Web ブラウザでの設定、制御」での「基本設定」「機器設定」「機器名称」及び「通信設定」「ダイレクトWEBコマンド制御」の各項目を設定してご使用ください。
接点出力８は、B 接点です。ON 動作で OFF 動作の、OFF 動作で ON 動作の結果が生じます。

第７章
ロギング機能

１．ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 1000 件記録します。1000 件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1）TELNET による設定と表示
記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド
変数名　：　logMode
コマンド　：　.logMode

② 表示モードの変数名とコマンド
変数名　：　logDisp
コマンド　：　.logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド
（通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。）
コマンド　：　LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成
値は最下位を０ビットとし、31 ビットの構成になっています。

０：無、１：有

ビット			ビット		
30	：	未使用	14	：	未使用TELNET ログイン・ログアウト
29	：	手動スイッチ押下	13	：	TELNET 接続・切断
28	：	接点出力状態変化	12	：	Web ログイン・ログアウト
27	：	接点入力状態変化	11	：	Web 接続
26	：	未使用	10	：	メールログイン・ログアウト
25	：	スクリプト実行/失敗	9	：	メール不正アクセス
24	：	未使用	8	：	ユーティリティログイン・ログアウト
23	：	SSH サーバ接続/切断	7	：	ユーティリティ接続・切断
22	：	未使用	6	：	未使用
21	：	ＮＴＰアクセス	5	：	接点制御コマンド
20	：	未使用	4	：	未使用
19	：	未使用	3	：	ping 監視によるイベント
18	：	未使用	2	：	ping 無応答
17	：	変数設定、write	1	：	ping 送信
16	：	PPPoE 関連	0	：	
15	：	未使用			

TELNET 通信による設定例

・ping 監視によるイベント、接点制御コマンドのログを記録する場合

.logMode=00000000000000000000000110100

・全て表示する場合

.logDisp=11111111111111111111111111111111（デフォルト）

・接続中に「変数設定」だけ表示とする場合

変数を変更せずにＬＯＧＤＩＳＰコマンドで表示を変更できます。

LOGDISP=00000000000010000000000000000000

■ ログ表示コマンド

コマンド	内　　容
LOG	ログの表示（連番号順）
LOG n	ログの表示（最新ｎ個）
LOGTIME	e = t　　ログ開始からの経過秒＝現在時刻 e0 = t0　NTP 接続までの経過秒＝最初の取得時刻 NTP 無効の場合はｅのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。

<Enter>キーで続きの 20 項目を表示します。

■ ログの表示形式

nnn　ttt　a　b　xxxxxxxx　c

nnn		： 連番号
ttt		： NTP 無効時：記録開始からの時間（秒）
yy.mm.dd	hh:mm:ss	： NTP 有効時：年月日時分秒
a		： 接点番号
b		： PING 送信先番号（1～4 番）
xxxxxxxx		： イベント
c		： ＩＰアドレス

■ 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Contact On	接点 ON
Contact Off	接点 OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」、と表示されます。	
接点制御によるイベント	
MSON	全接点の出力開始
MSOF	全接点の出力停止
SON	指定された接点の出力開始
SOF	指定された接点の出力停止
アクセスによるイベント（接続先ＩＤが表示されます。）	
--> Web	Web 接続
==> Web	Web ログイン
<== Web	Web ログアウト（切断）
MAIL,TELNET の接続、ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTP サーバ接続エラー。３回続けて失敗した場合。
NTP　---　hh:mm:ss	NTP サーバ接続
SSHServerConnected	SSH サーバ接続
mode に関係のない表示	
Mail　Error	メール送信エラー
by Link Manual SW	手動スイッチ押下

第８章
PPPoE の使用

１．ＰＰＥｏＥについて

本装置は PPPoE を搭載しています。通信事業者の PPPoE サーバに対する、PPPoE クライアントとして、ご利用いただけます。

２．設定について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下の変数をご用意しています。
変数の変更は、コマンドから行います。
また、◎の変数は設定ユーティリティのメニューから設定を行えます。

◎pppMode	1:常時接続モード 0:コマンド接続モード（初期値 0）
◎pppUserId	ユーザーＩＤ
◎pppPassword	パスワード
pppMyMru	自局側 MRU（初期値 1454）
pppNoReplyInterval	無応答判定時間（秒、初期値 2）
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔（秒、初期値 30）
pppReconnectInterval	自動再接続間隔(秒,初期値 5：フレッツ仕様では 5 以上）
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔（秒、初期値 30）
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数（初期値 10）
pppIcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔（秒、初期値 0）
pppIcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数（初期値 5）
pppLogMode	1:接続・解放等のログを記録 0:記録しない（初期値 1）

３．制御について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下のコマンドをご用意しています。

PPPCONN	接続動作を開始 pppUserId と pppPassword が設定されていて、かつ初期状態なら動作を開始し Command OK と表示する。そうでなければ Command failed と表示する。
PPPDISC	切断動作を開始 常に Command OK と表示する。初期状態なら何もしない。
PPPSTAT	状態表示 常時接続モードでも、コマンドを使用できる。

４．動作について

PPPoE 機能ご利用時の動作を説明します。

常時接続モード（pppMode＝1）

・立ち上げ時に pppUserId と pppPassword が設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続が不成功なら pppConnectInterval の間隔でリトライを続けます。
・接続後、通信中に切断された場合は、pppReconnectInterval 後に接続をリトライします。
・PPPDISC コマンドで切断した場合は、PPPCONN コマンドを実行しない限り接続動作は開始しません。この PPPCONN コマンドによる接続が不成功でも、リトライはしません。

リセット時の動作

・接続時に CPU リセット（ウォームスタート）を行うと、自動的に切断します。常時接続モードであれば、その後あらためて接続動作を開始します。

DNS サーバアドレス取得

・IPCP 接続手順で取得したアドレスを変数 ipAdDnsServer に自動的に設定します。

状態表示

・PPPSTAT コマンドでは、フェーズ（p）とサブフェーズ（s）を、p-s として表示します。
例：タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズに戻るが、状態表示は次のようになる。
PPPSTAT 0,1-1 これは 1-1 の状態で接続が不成功となり、初期フェーズになったことを示します。

・1-3 と 3-3 は、状態としては存在しません。PPPSTAT 0,のあとに続く表示としてだけ用いられます。例えば、PPPSTAT 0,3-3 となったら、認証失敗を示します。

・接続フェーズでは、等号に続けて IP アドレスも表示します。

各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態が決まります。

フェーズ

0:：初期フェーズ
1：Discovery フェーズ
2：LCP フェーズ
3：CHAP フェーズ
4：IPCP フェーズ
5：接続フェーズ
6：切断フェーズ

サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。（初期フェーズと切断フェーズには存在しません）

Discovery フェーズ

0:：初期
1：PADI 送信、PADO 待ち
2：PADR 送信、PADS 待ち
3：PADS エラー
4：リンク確立

LCP フェーズ、IPCP フェーズ

0：初期
4：Closing
6：Req-Sent　　Config-Req 送信、Config-Ack 待ち、Config-Req 待ち
7：Ack-Rcvd　　Config-Req 送信、Config-Ack 受信、Config-Req 待ち
8：Ack-Sent　　Config-Req 送信、Config-Req 受信、Config-Ack 送信、Config-Ack 待ち
9：リンク確立

CHAP フェーズ

0：初期
1：Challenge 待ち
2：Result 待ち
3：エラーResult
4：OK

接続フェーズ

0：通常
1：障害
2：復旧中

無応答判定

無応答判定時間[変数 pppNoReplyInterval]は、以下の場合に適用します。

- PADI に対する PADO 待ち
- PADR に対する PADS 待ち
- LCP,ICPC で Config-Req に対する Config-Ack,Config-Nak 待ち
- LCP,ICPC で Config-Req 待ち
- LCP,ICPC で Term-Req に対する Term-Ack 待ち
- LCP で Echo-Req に対する Echo-Reply 待ち
- CHAP チャレンジ待ち
- CHAP リザルト待ち

接続中は、pppLcpEchoInterval の間隔で LCP エコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。pppNoReplyInterval 以内に応答が無いとその時点で再び送信します。無応答が pppLcpEchoCount の回数に達するとノットレディと見なします。

ノットレディと見なすと、接続手順を開始できるか（レディになったか）をチェックします。接続手順を開始できるようになったとき（具体的には PADI に PADO が返ってきたとき)、あらためて LCP エコー要求を送る。応答があれば、接続状態に戻ったと見なします。応答が無ければ、接続手順を開始し、再接続します。（ただし常時接続モードでなければ、再接続はしません）

接続中に、ppplcmpEchoInterval の間隔で ICMP エコー要求を送って、IP リンクが解放されていないか監視できます。無応答が ppplcmpEchoCount の回数に達すると、IP リンク解放と見なし、常時接続モードなら再接続を行います。初期値は ppplcmpEchoInterval が 0 ですので、ICMP エコー要求は送りません。

LCP エコーと ICMP エコーを除いては、リトライ回数は 3 になっています。

ログ記録

変数 logMode の 16 ビットが有効な場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが解放された

第９章
シャットダウンスクリプト

１．スクリプト仕様について

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。この機能により、接続された機器を正常に停止できます。

1-1　スクリプトの基本動作

① 接点がOFF 命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF 命令はコマンド、スケジュール、死活監視より出されます。
② 指定のIP アドレス、ポートにTELNET 接続またはSSH 接続を行います。
③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。
④ スクリプト実行後、以下の条件で接点をOFF します。
・PING 応答確認有りの場合：シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でPING 監視を行い応答が無くなるか、またはシャットダウン遅延時間がタイムアップした時
・ PING 応答確認無しの場合：シャットダウン遅延時間がタイムアップした時
（スクリプトの終了コードにより接点OFF 条件を定めることができます。）
⑤ SSH 接続は同時には 1 個だけ可能です。複数ある場合は、他のSSH 接続が終わってから接続することになるます。SSH サーバが接続している場合は、強制的に切断します。

1-2　設定

（2-1-2-1-1 シャットダウンスクリプト設定をご参照ください。ブラウザから設定できます。）
本機を TELNET 接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。（接点毎に以下の設定をします。）

IP アドレス	：	debOlShutdownAddr
Port 番号	：	debOlShutdownPort 0 を指定すると、TELNET なら 23、SSH なら 22 と見なします。
スクリプト番号	：	debOlShutdownScript
スクリプトの有効／無効	：	debOlShutdownEnabled
サーバ名（ＩＤ）	：	debOlShutdownName
パスワード	：	debOlShutdownPassword
PING 実行先	：	debOlShutdownPingAddr PING でシャットダウン終了を確認すします、 IP アドレスまたはドメイン名を設定します。
PING 間隔	：	debOlShutdownPingInterval
PING 回数	：	debOlShutdownPingCount
PING 限度	：	debOlShutdownPingMax
接点OFF 条件		debOlShutdownOffMax

1-3　ログ

① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数はdebOlShudownExit とdebOlShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

1-4　エラー処理

① 接続できない時
シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でリトライします。
接続できなければ、終了コード 254 で終了します。

② 切断された時
接続後に切断されたときは、終了コード 253 で終了します。

1-5　テキスト仕様

① 条件

- テキストサイズは、2Kbyte までです。
- テキスト行数は 250 行までです。
- テキストの第 1 行は、TELNET または SSH とします。
- 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
- スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
- ２バイト文字にも対応しています。

② スクリプト関数詳細

文字列	：	二重引用符”で囲みます。 CR コードは¥r、LF コードは¥n で表します。 また、1 個の¥は¥¥で、1 個の”は¥”で表します。 制御コード等は**¥xnn** で nn は２桁の 16 進数で表します。 （長さは最大 63 バイト）
timeout 時間	：	単位秒。スクリプトタイムアウト 最大 1023　（デフォルト 10 分） 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。 （終了コードは 255）
delay 時間	：	単位 100 ミリ秒、一時停止、最大 1023
goto ラベル	：	指定ラベルに飛びます。
ラベル	：	ラベルは 1～99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	：	スクリプト終了　終了コードは 0～255。省略は 0 変数 debOlShudownExit に設定されます。
send 文字列	：	文字列を送信する。
recv	：	データを受信バッファに受信する。
recv 時間 goto ラベル	：	データを受信バッファに受信します。（時間の単位は秒） 時間内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	：	
if 文字列 goto ラベル	：	受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	：	受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	：	受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	：	
/	：	コメント 各文の終わりにも/を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	：	メッセージ変数 debOlShutdownMsg に文字列を入れます。
sendname	：	サーバ名（ＩＤ）を CR コードつきで送信します。
sendpassword	：	パスワードを CR コードつきで送信します。

③ スクリプト例（Wiindows 用）

```
TELNET
//強制タイムアウト時間　600 秒
timeout 600
//ユーザーログイン、パスワード確認
1:
recv 10 exit 99
unless ″login:″ goto 1
sendname
2:
recv 10 exit 99
unless ″password:″ goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ″>″ goto 3

//シャットダウンコマンド送信
send ″shutdown /s¥r″
4:
recv
unless ″>″ goto 4
send ″exit¥r″
exit
```

注意	シャットダウンされる側のパソコンは、TELNET または SSH サーバ機能が有効になっている必要があります。

④ スクリプト入力

SCRIPT コマンドで始めます。
SCRIPT 番号
番号は 1～8
ENDSCRIPT コマンドで終わります。
変数 script1～script8 に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。
エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

1-6　PING 確認について

スクリプト実行が終了したなら、終了コードが何であっても PING 確認を実行します。
PING 確認では、PING 実行先が指定されていれば、指定間隔で PING を送信します。
PING 回数だけ連続して未応答なら、PING 確認を終了します。
PING 限度だけ送信したなら、PING 確認を終了します。
PING 実行先が指定されていなければ、すぐに PING 確認を終了します。
PING 確認を終了したなら、debOlShutdownTime の遅延後に接点をオフします。

第１０章
SNMP について

１．ＳＮＭＰについて

本装置はＳＮＭＰエージェント機能を装備しています。ＳＮＭＰマネージャーを利用して、ネットワークシステムの管理、接点制御を統合的に行うことができます。

２．機器設定

本装置を TELNET 接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

① SNMP のSET、GET 有効化
　変数　　：　snmpGetSetEnabled
　デフォルト　：　0
　　（0：無効　1：有効）

② SNMP TRAP の有効化
　変数　　：　snmpTrapEnabled
　デフォルト　：　0
　　（0：無効　1：有効）

③ SNMP 不正アクセス時の
　TRAP 通知
　変数　　：　snmpAuthenTrapEnabled
　デフォルト　：　2
　　（1：有効　2：無効）

④ TRAP 送信回数
　変数　　：　snmpTrapSendN
　デフォルト　：　1
　　（1～9）

⑤ TRAP 送信間隔（秒）
　変数　　：　snmpTrapSendInterval
　デフォルト　：　1
　　（1～9）

⑥ TRAP 送信先アドレス
　変数　　：　snmpTrapAddr
　デフォルト　：　0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
　　0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
　　（8 箇所）

⑦ SNMP 用フィルターの有効化
変数 : snmpFilterEnabled
デフォルト : 0
（0：無効　1：有効）

⑧ フィルター有効時許可するアドレス
変数 : snmpFilterAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0
（10 箇所）

⑨ フィルター有効時の Mask
変数 : snmpFilterEnabled
デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255
（10 箇所）

⑩ SNMP　GET コミュニティ名
変数 : getCommunity
デフォルト : Public

⑪ SNMP　SET コミュニティ名
変数 : setCommunity
デフォルト : Public

⑫ SNMP　TRAP コミュニティ名
変数 : trapCommunity
デフォルト : Public

３．ＭＩＢについて

本機を管理するためのプライベートＭＩＢを準備しています。
当社ホームページ（http://www.meikyo.co.jp）よりMEIKYO.MIB をダウンロードし、ご利用ください。

プライベートＭＩＢファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意　ＭＩＢのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。

第１１章
仕様一覧

■ 変数一覧

変　数　名	初　期　値	内　容	備　考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IP アドレス	
ifPhysAddress	（機器毎）	MAC アドレス（ReadOnly）	
serialNo		未使用	
keyCode		キーコード：自動生成	
keyCheck	0	キーチェック	0：無効 1：有効
sysName	Noname	機器名称	全角 9 文字 半角英数字 19 文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMP の SET、GET の有効化	0：無効 1：有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAP の有効化	0：無効 1：有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP 不正アクセス時の TRAP 通知	1：有効 2：無効
snmpTrapSendN	1	TRAP 送信回数	1～9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP 送信間隔（秒）	1～9
snmpTrapAddr		TRAP 送信先アドレス	″,″ 区切りで 8 箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP 用フィルタの有効化	0：無効 1：有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	″,″ 区切りで 10 箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時の Mask	10 箇所
getCommunity	public	SNMP GET コミュニティ名	
setCommunity	public	SNMP SET コミュニティ名	
trapCommunity	public	SNMP TRAP コミュニティ名	
sysDescr	文字列 1	（ReadOnly）	
sysContact	文字列 2	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
ifDescr	文字列 3	（ReadOnly）	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTP リトライ回数	
netRarpRetry	0	RARP リトライ回数	
telnetEnabled	1	TELNET の有効化	0：無効 1：有効
telnetPort	23	TELNET のポート番号	
rshdPort	514	リモートシェル（rsh）に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル（rsh）に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTY のポート番号	
loadPort	9100	ファームウェアローダーのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTML ファイルをロードするポート	

httpEnabled	1	HTTP の有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTP のポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP 自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP 自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTP コマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	1	DHCP の有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IP フィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr		IP フィルタアドレス	","区切りで 10 箇所以内
ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IP フィルタマスク	10 箇所
model		モデル名(ReadOnly)	
version		バージョン表示(ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET 通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogin	0	オートログインの有効化	0:無効 1:有効
serialAutoLogin	0		
userLoginTimeout	600	HTTP 自動ログアウト時間	
debOlStartMode	3	電源投入時の接点制御を指定	1: 電源断時の状態 2: 通常制御 3: スケジュール制御
debOlMaster	1,2,3,4,5,6,7,8	マスターの接点番号	左→右 1→8 接点 -1～3600 の整数
debOlPowerOnTime	1,2,3,4,5,6,7,8	各接点出力 ON 時間(単位:秒)	左→右 1→8 接点 -1～3600 の整数
debOlPowerOnSTime	1,2,3,4,5,6,7,8	本体起動時に適用する接点出力 ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→8 接点 -1～3600 の整数
debOlPowerOnTTime	0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールに適用する接点出力 ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→8 接点 0～3600 の整数
debOlShutdownTime	0,0,0,0,0,0,0,0	各接点の OFF 時間	左→右 1→8 接点 -1～3600 の整数
debOlWdogAddr		監視先 IP アドレス	左→右 1→8 接点 ","区切りで 8 箇所以内
debOlWdogSendMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	PING 監視 送信回数	左→右 1→8 接点 1～100 の整数
debOlWdogNoResMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	PING 監視 無応答回数	左→右 1→8 接点 1～100 の整数
debOlWdogActCond	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 監視対象数	左→右 1→8 接点 1～4(整数)
debOlWdogAction	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 Action	左→右 1→8 接点 0:noPing 1:noAction 3:On 4:Off

debOlWdogActCount	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 Action 回数(ReadOnly)	左→右 1→8 接点
debOlWdogStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視判断(ReadOnly)	左→右 1→8 接点 0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOlPopErrorMax	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 POP サーバーへの連続アクセス異常回数	左→右 1→8 接点 0:機能無効
debOlWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 最終応答(ReadOnly)	0:未設定 1:正常 2:異常 ″,″ 区切りで接点数×4
debOlWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 デフォルトゲートウェイ	0:無効 1:有効 ″,″ 区切りで接点数×4
debOlNoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 無応答回数(ReadOnly)	″,″ 区切りで接点数×4
debOlRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 IP アドレスからの応答時間(ms)	0:未設定 1:PING 応答の最小値 ″,″ 区切りで接点数×4
		PING 監視 異常回数	
debOlNoEchoInterval	5	PING 監視 無応答検出時間(秒)	5～60 の整数
debOlPingInterval	1	PING 監視 送信間隔(分)	1～60 の整数
pingInterval2	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 送信間隔個毎(分)	左→右 1→8 接点 0～60 の整数 0:未設定
debOlNameV		仮想接点の名称	全角 10 文字 半角英数字 20 文字以内
debOlPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0	仮想接点用の ON 遅延時間	左→右 1→8 仮想接点 -1～3600 の整数
debOlShutdownAddr		シャットダウンスクリプトの IP アドレス	
debOlShutdownPort	0,0,0,23,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの Port 番号	
debOlShutdownScript	0,0,0,1,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのスクリプト番号	
debOlShutdownEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0:無効 1:有効
debOlShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバー名(ID)	
debOlShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワード	
debOlShutdownMsg		シャットダウンスクリプトの成功、失敗ログ	
debOlShutdownExit	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの成功、失敗変数	
debOlShutdownPingAddr		シャットダウンスクリプトの PING 実行先	
debOlShutdownPingInterval	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの PING 間隔	
debOlShutdownPingCount	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの PING 回数	
debOlShutdownPingMax	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプト PING 限度	
debOlShutdownDebug	0	シャットダウンスクリプトのエラー処理	0:無効 1:有効
debOlShutdownOffMax	255	シャットダウンスクリプトの接点 OFF 制限	
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	左→右 1→8 接点 0:無効 1:有効

schOl(n)1Sch(文字列) (n) : 1～8 (文字列) : Kind,Year,Month,Day,Nth, WeekDay,PatNo		スケジュールデータ(ReadOnly)	
schCalCurrentYear		現在表示中のカレンダーの年	起動直後は現在の日付
schCalCurrentMonth		現在表示中のカレンダーの月	
schCalCurrentDay		現在表示中のカレンダーの日	
schRegNum	0,0,0,0,0,0,0,0	各接点のスケジュール登録個数	左→右 1→8 接点
schEditCalYear	0	編集中のカレンダーの年	
schEditCalMonth	0	編集中のカレンダーの月	
schEditCalDay	0	編集中のカレンダーの日	
schUlTimeout	60	アップロードのタイムアウト時間(秒)	
schUlCrcEnabled	1	アップロードの CRC チェックの有効化	0:無効 1:有効
schDlCrcEnabled	1	ダウンロードの CRC チェックの有効化	0:無効 1:有効
ipAdDnsServer		DNS サーバアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角英数字 63 文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角英数字 63 文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角英数字 63 文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailLastEvent	通知メールの内容	
mailAddr		メールアドレス	
extMailAddr		送信先メールアドレス	8 個
mailInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 メール送信有効化	左→右 1→8 接点 0:無効 1:有効
mailPppInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	温度監視 メール送信有効化	左→右 1→8 接点 0:無効 1:有効
mailNvInInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	接続確率メールの有効化	左→右 1→8 接点 0:無効 1:有効
mailNvOutInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	メール通知設定フラグ 接点入力	左→右 1→8 接点 0:通知しない 1:通知する
mailManuSwInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	メール通知設定フラグ 手動スイッチ	左→右 1→8 接点 0:通知しない 1:通知する
mailOverInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	メール通知設定フラグ 接点出力	左→右 1→8 接点 0:通知しない 1:通知する
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効(ログイン) 2:有効(パスワード方式)
mailCommandAddrEnabled	1	メールコマンドアドレスの有効化	0:無効 1:有効
mailLogoutTime	10	メールログアウト時間(分)	1～60 の整数
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1～60 の整数
mailApopEnabled	0	APOP の有効化	0:無効 1:有効
mailSmtpAuthEnabled	0	SMTPAUTHの有効化	0:無効 1:有効

mailSmtpAuthMask	7	SMTPAUTHの Mask	
promptMode	2	TELNET プロンプトモード	0:無し 1:「＞」の表示 2:「機器名＞」の表示
logMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31 ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31 ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1～20:閾値
mailLogMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	メールで送信するログモード(31 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTP サーバの IP アドレス	
ntpInterval	6	NTP サーバへのアクセス間隔(×10 分)	
syslogEnabled	2	状態通知の有効化	0:無効 1:有効
syslogLogMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	sysLog で送信するログモード(31 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdCenter		MSRP/sysLog 送信先 IP アドレス(8 箇所)	
centerPort	5000,5000, 5000,5000,5000, 5000,5000,5000	MSRP/sysLog 送信先ポート番号	
terminalId	0	監視情報用 ID 番号	0～9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100 ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNET からの TELNET 中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTY からの TELNET 中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNET からの TELNET 中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTY からの TELNET 中継ポート	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
pppMode	0	PPPoE 常時接続モード	0:無効 1:有効
pppUserId		PPPoE ユーザーID	
pppPassword		PPPoE パスワード	
pppMyMru	1454	自局側 MRU	
pppNoReplyInterval	2	無応答判定時間(秒)	
pppConnectInterval	30	常時接続リトライ間隔(秒)	
pppReconnectInterval	5	自動再接続間隔(秒)	
pppLcpEchoInterval	30	LCP のエコー送信間隔(秒)	
pppLcpEchoCount	10	LCP のリンク解放までの無応答回数	
pppIcmpEchoInterval	0	ICMP のエコー送信間隔(秒)	
pppIcmpEchoCount	5	IP リンク解放までの無応答回数	
pppStat	0,0,0	PPPoE の状態(ReadOnly)	

pppAddress		PPPoE　IP アドレス	
pppConnTime	0:00:00	接続後の経過時間(秒)	0:無接続
ispName		ISP の名称	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
debWakeupPhysAddr		WOL 設定	″,″ 区切りで 4 箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想接点用の WOL 設定	″,″ 区切りで 8 箇所以内
popPort	110	POP3 ポート	0～65535
smtpPort	25	SMTP ポート	0～65535
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1～99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1～999
ipAdPopServer		POP3 サーバアドレス	
ipAdSmtpServer		SMTP サーバアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
nttcpBufferMax	10000	バッファサイズの最大値	64～300000
nttcpOpt_l	4096	バッファサイズ(-l)の省略値	64～300000
nttcpOpt_n	2048	バッファ数(-n)の省略値	1～999999999
nttcpOpt_g	0	送信間隔(-g)の省略値(マイクロ秒)	0～9999999
nttcpOpt_T	0	タイトル表示(-T)の省略値	0: 無し、1: 有り
nttcpOpt_f	文字列 4	出力書式(-f)の省略値	
nttcpSvIpAddr		サーバの IP アドレスの省略値	
nttcpSvPort	5037	サーバのポート番号(-p)の省略値	0～65535
nttcpDataPort	5038	データのポート番号	0～65535
nttcpMcPhAddr	01:00:5E:11:32:25	マルチキャストの MAC アドレス	
nttcpMcIpAddr	224.17.50.37	マルチキャストの IP アドレス(-m)の省略値	
nttcpMcPort	5047	マルチキャストのポート番号の省略値	0～65535
nttcpSumCheck	0	サムチェック制御	0: 無し、 1: データ比較有りなら無し 2: 有り
nttcpTimeout	30	タイムアウト時間(秒)	3～999
nttcpAutoStart	0	サーバモードでの自動立ち上げ指定	0: 無し、1: 有り
manuSwCommand	SOF1,SOF2, SOF3,SOF4,SOF5, SOF6,SOF7,SOF8	空または最大 4 個の実行コマンド	SONn,SOFn,SSRn, MSON,MSOF
manuSwComInterval	1,1,1,1,1,1,1	コマンド間実行間隔 (秒)	1～3600
manuSwComFinish	10	コマンド終了時間 (秒)	3～3600
pingPktSize	16	PING パケットのデータ長	16～1472
resetCause	1	リセット原因表示	
popErrorCount	0	PING 監視　POP サーバーへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LED の点滅の有効化	0:無効　1:有効
clock	249	起動後の経過時間(秒)	
sshServerEnabled	0	SSH サーバーの有効化	0:無効　1:有効
sshServerPort	22	SSH サーバーの TCP ポート番号	

sshServerTimeout	10	SSH サーバーへのタイムアウト時間(秒)	
sshServerName	admin	SSH サーバーへの接続 ID	8 文字以内
sshServerPassword	magic	SSH サーバーへの接続パスワード	16 文字以内
logLevel	2	SSH 使用中の表示メッセージレベル	
sshPublicDsaKey		KEYGEN コマンドで生成する SSH キー	
sshPublicRsaKey		KEYGEN コマンドで生成する SSH キー	
sshKnownHost1		SSH プロトコルでシャットダウンする ときの接点ごとのキー	
sshKnownHost2			
sshKnownHost3			
sshKnownHost4			
sshKnownHost5			
sshKnownHost6			
sshKnownHost7			
sshKnownHost8			
nvInName	NV Input1,NV Input2, NV Input3,NV Input4, NV Input5,NV Input6, NV Input7,NV Input8	接点入力の名前	
nvInOnContactCommand		接点入力短絡時に実行する接点制御コマンド	
nvInOffContactCommand		接点入力開放時に実行する接点制御コマンド	
nvInStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	接点入力 状態	0:開放 1:短絡
nvInOnThreshold	1	接点入力 認識時間(秒)	
nvInOffThreshold	1	接点入力が開放されたと認識する閾値 (単位:秒)	
nvInIgnorePeriod	3	起動時に接点入力に連動した接点 出力制御を行なわない期間(単位:秒)	
nvOutName	NV Output1,NV Output2, NV Output3,NV Output4, NV Output5,NV Output6, NV Output7,NV Output8	接点出力の名前	
nvOutStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	接点出力 状態	0:開放 1:短絡
nvOutControlMode	0,0,0,0,0,0,0,0	接点出力 モード設定	0:短絡/開放 2:パルス出力
nvOutPulseWidth	50,50,50,50, 50,50,50,50	パルス出力時のパルス幅(×10mSec)	最小値:25(250mSec)
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出エラー数	
versionupEnabled	1	バージョンアップの有効化	0:無効 1:有効
httpCommandReturn		ダイレクト WEB コマンド実行後の戻り用 URL ("http://"を省いて記述)	
httpCommandNo	0	ダイレクト WEB 実行後に表示されるページ の設定	0:コマンド実行結果を表示 1:元の画面に戻る 2:httpCommandReturn で指 定したアドレスにジャンプ

httpCommandSet	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ダイレクト WEB 実行後に表示されるページの 表示制限設定	
httpScreen	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ブラウザに表示される画面/項目の表示設定	0:非表示 1:表示
httpPageType	0	PC、スマートフォン等端末の種類にあわせ て画面を切り替えるための設定	
httpPageStart	0	未使用	
userHtmlEnabled	0	ユーザーHTML の有効化	0:無効 1:有効
userHtmlPort	8080	ユーザーHTML に使用する着信ポート	
userHtmlLen	0	ユーザーHTML のファイルサイズ	8189 以下
userHtmlMode	0	html 内で設定保存できる数字変数	
userHtmlFile		ユーザーが利用する任意変数	255 文字以下
userHtmlBtnSizeW	120	ユーザーHTML に配置するボタンの幅	999 以下
userHtmlBtnSizeH	60	ユーザーHTML に配置するボタンの高さ	999 以下
userHtmlInterval	10	ユーザーHTML の自動更新間隔	
userHtmlText		ユーザーhtml 内でコメント等を記入する変数	255 文字以下
userHtmlAddress		ユーザーが利用する任意変数	63 文字以下
userHtmlNvOnBtnName	ON	配置する接点 ON ボタンの名称	19 文字以下
userHtmlNvOffBtnName	OFF	配置する接点 OFF ボタンの名称	19 文字以下

文字列 1 Meikyo Remote Power Controller, SE10-8A7B1 Ver. 0.10A

文字列 2 .inforpc@meikyo.co.jp

文字列 3 Meikyo 100BASE-TX Driver

文字列 4 %9b%8.2rt%8.2ct%12.4rbr%12.4cbr%8c%10.2rcr%10.1ccr

■ ログ一覧表

内　　容	情　　報	TELNET などの LOG
ログ開始		Log Start
PING 送信	接点 no. Ipaddr no.	ping
PING 無応答	接点 no. Ipaddr no.	No Echo
死活判定（NoAction）	接点 no.	No Action
死活判定（接点 ON）	接点 no.	NV On
死活判定（接点 OFF）	接点 no.	NV Off
正常／回復中	接点 no.	NV Recovered
スケジュール（接点 ON）	接点 no.	NV On by Schedule
スケジュール（接点 OFF）	接点 no.	NV Off by Schedule
全接点 ON	接点 ALL ID （ID は接続者）	MSON
全接点 OFF	接点 ALL ID （ID は接続者）	MSOF
接点 ON	接点 no.ID （ID は接続者）	SON
接点 OFF	接点 no.ID （ID は接続者）	SOF
UTY 接続	IPaddr	—>Uty
UTY ログインせず切断	IPaddr	<—Uty
UTY ログイン	Ipaddr ID （ID は接続者）	==>Uty
UTY ログアウト	Ipaddr ID （ID は接続者）	<==Uty
メールログイン要求	Ipaddr no.（no.は設定番号）	—>Mail
メールログイン	Ipaddr no.（no.は設定番号）	==>Mail
メールログアウト	Ipaddr no.（no.は設定番号）	<==Mail
TELNET 接続	IPaddr	—>Telnet
TELNET ログインせず切断	IPaddr	<—Telnet
TELNET 多重超接続	IPaddr	>>xTelnet
TELNET ログイン	IPaddr	==>Telnet
TELNET ログアウト	IPaddr	<==Telnet
Web 接続		—>Web
Web ログイン		==>Web
Web ログアウト		<==Web
PPPoE 接続した	IPaddr	PPPoE Connect
PPPoE 切断した		PPPoE Disconnect
PPPoE 切断された		PPPoE Disconnected
PPPoE ノットレディになった		PPPoE Modem Down
PPPoE レディになった		PPPoE Modem Up
PPPoE 接続状態に戻った		PPPoE Continue
PPPoE IP リンクが解放された		PPPoE IP Link Release
設定変更	[変数名] ID （ID は接続者）	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE)	ID （ID は接続者）	write to FROM
NTP サーバ接続	hour minute second	NTP —— hh:mm:ss
NTP サーバ接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error
SSH サーバ接続	IPaddr	SSH Server Connected

■ コマンド一覧表

コ マ ン ド	内　　容	
SONn	指定された接点の出力開始　n＝1～8	
SOFn	指定された接点の出力停止　n＝1～8	
SSRn	指定された接点の状態反転　n＝1～8	
MSON	全接点の出力開始	
MSOF	全接点の出力停止	
POS	全接点の状態取得 応答:mmmmmmmm 左側から接点1～8 m＝0:OFF　1:ON	
XPOS	全接点の状態詳細の取得 応答:ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX、ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側から接点1～8 A=0:OFF　1:ON B=0:OFF 遅延中　1:ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間	
OLS[n]	死活監視状態の表示　n＝1～8	
	nを省略すると全ての接点を表示します。	
	コンマ区切りで表示。	
	ContactNo.	接点番号[1～8]
	Contact Output	接点状態[0:Off　1:　On]
	Judge	判定[1:正常　2:異常　3:回復中]
	Action Count	Action 実行回数
	Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数
	NoEchoTime1	アドレス1の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
	Last Ping2	アドレス 2 の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount2	アドレス 2 の未応答回数
	NoEchoTime2	アドレス 2 の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
	Last Ping3	アドレス 3 の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount3	アドレス 3 の未応答回数
	NoEchoTime3	アドレス 3 の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
	Last Ping4	アドレス 4 の最後の応答[1:正常　2:異常]
	NoEchoCount4	アドレス 4 の未応答回数
	NoEchoTime4	アドレス 4 の応答時間(ms)
		[0:未設定　1:応答時間　9999:未応答]
VER	バージョンの表示	
?xxxx	変数の表示　（xxxx は変数名）	
LIST	全ての変数の値を表示	
.xxxx=yyyy	変数を設定し、設定された変数を表示　（xxxx は変数名、yyyy は変数値）	
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。	

&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
CPURESET	CPU をリセットします。（接点状態は変化しません。）
LOG [n]	ログの表示 （n を付けると最新n個を表示）
LOGB	ログの表示 （最新のログから表示します。
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット
LOGDISP	ログ表示モード
LOGDISP=bbb	ログ表示モードの変更 （bbb はログビット）
SONn	指定された接点出力を短絡 n＝1～8
SOFn	指定された接点出力を開放 n＝1～8
SSRn	指定された接点出力を反転 n＝1～8
SSOn	接点出力の状態を取得 nを省略すると全ての接点出力を表示します。 例）SSO2 NV_OUT #2 : OPENED
SSIn	接点入力の状態を取得 nを省略すると全ての接点入力を表示します。 例）SSI2 NV_IN #2 : OPENED
DATE [yy/mm/dd]	年月日設定 例）DATE yy/mm/dd yy：年 mm：月 dd：日
TIME [hh:mm:ss]	現在時刻設定（秒は省略可） 例）TIME hh:mm:ss hh：時 mm：分 ss：秒
PING addr	ICMPを4回送信します。 例）PING [IP アドレス]
PROMPT=n	0（プロンプト表示無し） 1（「 > 」のプロンプト表示 ） 2（「 機器名 > 」のプロンプト表示 ） *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
TELNET	変数「IpAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNET クライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね 40K バイト以下でご利用ください。
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを 2 回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
EXIT	回線切断 最初の文字が E, e, Q, q の場合は EXIT と認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 仕様一覧表

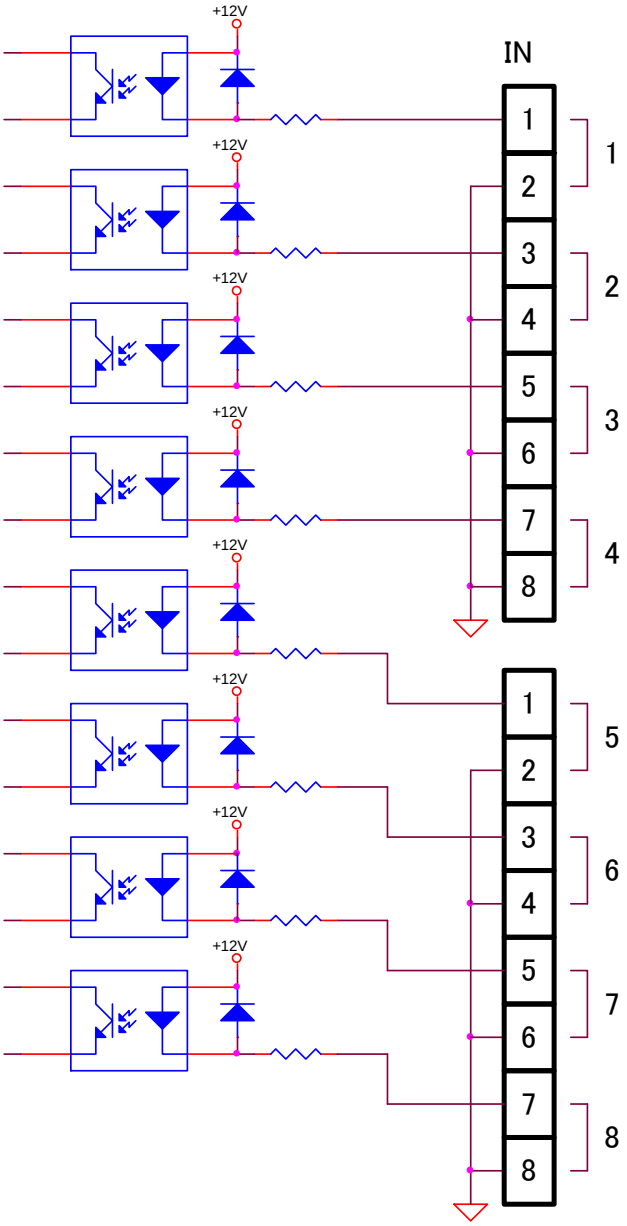
通信仕様	LAN 通信仕様		ARP、TCP/IP、UDP/IP、ICMP、POP3、SSH, BOOTP、DHCP、TELNET、SMTP、APOP、 NTP、HTTP、SNMP,PPPoE,NTTCP
	LAN 制御方法		SNMP マネージャー,TELNET,SSH
			TCP/IP ユーティリティ、Web
			E-mail
機能	接点制御／管理		接点 ON
			接点 OFF
			接点状態反転
			接点状態取得
	スケジュール機能		年間スケジュール機能
			RTC（Real Time Clock）による時刻保持
			NTP による時刻同期機能
			スケジュール ON/OFF 機能
	状態監視		ICMP送信
			通報機能：SNMP トラップ、UDP パケット
			Mail 通知
	WOL 対応機能		あり：MAGIC PACKET 送信
ハード仕様	インターフェース		10Base-T/100Base-TX （RJ45） （IEEE802.3 に準拠）
			接点入力 ×8 無電圧接点出力 ×8 DC30V 1A AC30V 1A （抵抗負荷）
	本体	入力電圧	DC12V
		消費電力	最大 6W 以下
	付属 AC アダプタ		PSE 取得済
		定格入力電圧・周波数	AC100V ±10% 50/60Hz
		定格出力電圧・電流	DC12V 1.2A
	使用環境		温度 5～40℃
			湿度 20～80%（ただし結露なきこと）
	外形寸法		160(W) x40.0(H) x160(D) mm
	重量		0.9kg （AC アダプターを除く）
各種規格	RoHS 指定準拠		

＊ 外形寸法の(H)は脚ゴムを含みません。

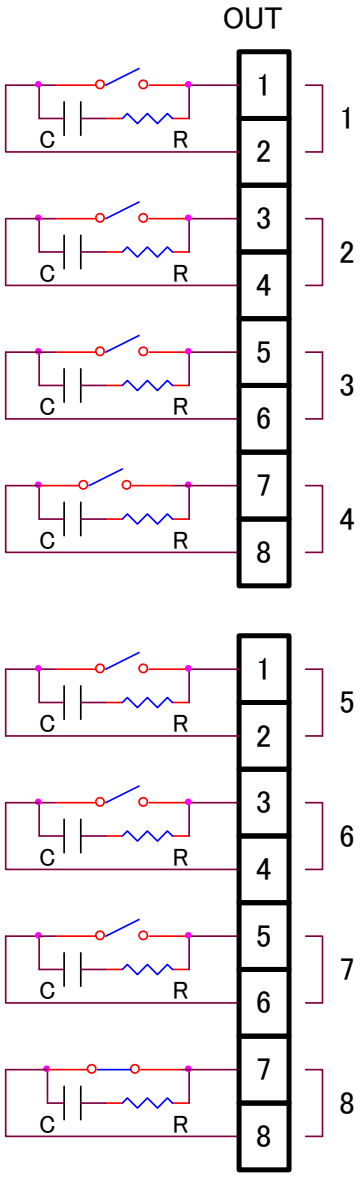
＊ 付属品の接点端子装着時の外形寸法(D)は 170mmとなります。

■ 接点入出力インターフェース

1） 入力



2） 出力



問い合せ先

明京電機株式会社

〒116-0012　東京都荒川区東尾久 4-27-2
TEL　03-3810-5580　FAX　03-3810-5546

ホームページアドレス
ｈｔｔｐ://www.ｍｅｉｋｙｏ.ｃｏ.ｊｐ/

ご注意

（1）本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。

（2）本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

（3）本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。

（4）本製品を運用した結果の影響については、（3）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

（5）本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

（6）弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

POSE（POint SEquence manager） SE10-8A7B1
取扱説明書　2014 年　9 月　第 1.0b 版